明治三十六年九月二十三日發行
（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第百六拾六號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回十五日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第百六拾六號　目次

●本會十月例會

本會例會の義炎暑のため暫らく休會致し居候處追々秋冷に向ひ候に付**來十月三日**第一土曜日午後**正一時半**より例會を麴町區虎の門內**東京女學館**講堂に於て相開き候間萬障御繰合せ御知友御誘引御來會有之度候也（衣服御質素に相願度候）

一家庭看護法

出席講師

醫學博士　**三宅秀君**

外壹名

明治三十六年九月

大日本婦人衛生會

●會告

ドクトル**富士川游君**には來月以降本會雜誌の爲め執筆の事を承諾せられ候に付今後は本誌に一層の光彩を添ふべく候此段御披露申上候也

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんと皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んこといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつはら學ぶべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは既に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一同集會を開き學識經驗ある人々を招請して衛生上諸般の講義演說談話を聽き互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす兹に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸愛姉に告け其贊成を仰ふくことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則

（明治廿二年十一月改正）

●第一章　目的

第一條　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を増進するにあり

●第二章　名稱位置

第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く

●第三章　會員

第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

第四條　入會の節は姓名族稱住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（亦附屬細則末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるへし

第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす

第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし

第七條　會員は本會に於て毎月發行する雜誌を無料にて受ることを得

第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず

●第四章　役員

第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす

第十條　本會に左の役員を置く

會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名

第十一條　會長副會長幹事評議員は每年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は事宜に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし

第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る

第十三條　會長の見込を以て役員外特に會員中より臨時指名委員を置くことあるへし

第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺位を生ずるときは次點者を以て補缺す

第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す

●第五章　集會

第十六條　集會は例會總會及評議員會とす例會は八月九月を除くの外每月一回とし通常第一土曜日午後一時より開會するものとす總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし評議員會は時々開會緊要の事項を協議するものとす

第十七條　例會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を嘱托し會員をして隨意聽講せしむるものとす

第十八條　會員は家〳〵の婦女若くは知己の婦人を本會[illegible]し講義演說等を陪聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるへきこと）

第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁す但贊成員若くは會員に緣故ある男子は此限にあらず

第二十條　規則の改正を要し又は最要の事件あるときは總會に於て議定するものとし議定は總て多數決とし可否同數なるときは議長之を決するものとす

第廿一條　每年三月總會に於て會計の收支決算竝に會務の概要會員の増減等を報告すべし

●第六章　會計

第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす但些少の金額に限り日用支出の爲め事務所に引出し置くことを得

第廿三條　會計の收支は總て會計主任の幹事検印を要するものとす

第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すへし

●第七章　支會

第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得支會は私立大日本婦人衛生會某支會と稱し其規則は本會の規則と抵觸せさる限記名すべし

第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出へし附屬員數増減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす

第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得

第廿八條　支會に加入したる本會々員に配付すべき本會の雜誌は支會に回送すへきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ

第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●第八章　雜件

第三十條　本會は每月一回雜誌を發行し每會に於ける衛生上講義演說談話報告の筆記及内外新報本會の諸報告等を揭け之を會員に配付すへし支會の報告あるとき又同じ

第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄贈する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を簿冊に登錄し備

本會雜誌を以て報告すべし第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券[illegible]）第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（牛込局宛）振出しあるべし第卅四條　會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を催促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若くは忠告することあるべし第卅五條　本規則は會長の意見又は會員二十名以上の賛成に依り總會の決議を經るに非ざれば之を更正することを得ず

事務所　東京市牛込區矢來町三番地

私立大日本婦人衞生會

●役員姓名

總裁　東伏見宮依仁親王妃　周子殿下

會長　侯爵夫人　鍋島榮子

副會長　濱尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子
全　羽山三紀子
全　岡田德子
全　高木かう子
全　山本多穂子
全　松平芳子
全　三浦教子
評議員　伊集院しげ子
全　石川貞子
全　濱田捨子
全　仁禮壽賀子
全　西升子
全　穗積歌子
全　緒方悦子
全　岡山とし子
全　男爵夫人　加藤鈴子
全　片山龜子
全　子爵夫人　田中いよ子
全　丹波貞子
全　高橋幸子
全　田村きよ子
全　相馬陸子
全　男爵夫人　南部限子
全　中濱芳子
全　伯爵夫人　松平充子
全　子爵夫人　松平正子
全　子爵夫人　松平久子
全　小塚小みどり子
全　岸濱子
全　三宅藤子
全　宮本樂子
全　宮下吹子

●支會　千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎

本會特別賛成員

（●は本會に於て講演せられし諸氏）

醫學博士　●入澤達吉君
理學博士　●飯島魁君
ドクトル　●伊澤信平君
地方視學官　●色川圀士君
醫學士　●伊東祐彦君
ドクトル　●飯盛挺造君
醫學博士　●伊藤隼三君
理學博士　●石川千代松君
內務省衞生局技手　●岩井禎造君
醫學士　●石原久君
貴族院議員　●濱尾新君
醫學博士　●濱田玄達君
法學博士　●鳩山和夫君
東京　秋原瑚四郎君
醫學博士　●芳賀榮二郎君
衞生局長　●長谷川泰君
新潟　長谷川一銓君
小兒科　小原頼之君
醫學士　●林春雄君
醫學士　●佐藤達次郎君
醫學博士　●緒方正規君

歩兵少佐　●堀內文次郎君
醫學博士　●土肥慶三郎君
醫學博士　●岡田和一郎君
醫學博士　●大澤謙二君
醫學博士　大西秀治君
醫學士　●大澤岳太郎君
一等藥劑官　●恩田重信君
醫學士　若杉喜三郎君
男爵　●加藤弘之君
ドクトル　●加藤照麿君
醫學士　●賀古鶴所君
醫學博士　●河本重次郎君
醫學博士　●片山國嘉君
醫學士　川上雅重君
ドクトル　●金杉英五郎君
醫學博士　●笠原光興君
醫學士　●高橋順太郎君
ドクトル　●高山紀齋君
醫學博士　●高木兼寛君
法學博士　高木豐三君
醫學士　●田代義德君
新潟　田代亮助君
男爵　●高崎正風君
醫學士　竹中成憲君
醫學士　高田耕安君
新潟縣病院長　高橋辰五郎君
藥學博士　●丹波敬三君
醫學士　高橋貞研君
藥學博士　●田原良純君
醫學士　田村光顯君
醫學士　●久保猪之吉君
醫學士　米山彦郎君
三等軍醫正　星野葆光君
醫學士　●宮本俶君

一等軍醫　橫井忠[illegible]君
大日本教育會長　辻新次君
理學博士　●坪井正五郎君
醫學博士　●長與稱吉君
男爵　南部彌男君
藥學博士　●長井長義君
新潟　長井千尋君
醫學博士　●中濱東一郎君
新潟　中村勇三郎君
醫學士　村松綱三君
醫學博士　●隈川宗雄君
醫學博士　●栗本東明君
醫學士　山田鐵三君
警視廳第三部長　●山根正次君
岡山　山川稚二君
醫學士　●丸茂文良君
衞生試驗所技手　●丸山長四郎君
松山病院　松山棟庵君
ドクトル　●小此木信六郎君
盲啞學校長　●小西信八君
廣島　小泉質君
醫學士　●古川榮君
東京　布施正顯君
內務省衞生局長　●後藤新平君
帝國大學教授　●エ、ベルツ君
醫學士　●甲野棐君
文部書記官　●寺田勇吉君
子爵　秋元興朝君
前軍醫總監　●足立寛君
ドクトル　●新井古芳君
ドクトル　富士川游君
高崎醫會長　土谷今次君
[illegible]會計　●[illegible]漸君

ドクトル　●久保田誠盛君
醫學博士　●佐々木政吉君
醫學士　淺田決君
ドクトル　●朝倉文三君
ドクトル　●朝山義六君
高崎　秋田聰太郎君
醫學博士　佐藤三吉君
醫學士　●佐井郁二郎君
醫學士　●佐藤恒久君
ドクトル　佐伯理一郎君
ドクトル　●榊順次郎君
醫學士　●榊保三郎君
醫學士　櫻井恆次郎君
醫學士　●北村精造君
ドクトル　●北川乙二郎君
醫學士　●木下正中君
醫學士　北島小太郎君
醫學博士　●北里柴三郎君
醫學博士　●三浦守治君
醫學博士　●三浦謹之助君
小兒科專門　●宮本仲君
理學博士　●箕作佳吉君
醫學博士　●三島通良君
醫學博士　●三宅秀君
醫學士　●三輪信太郎君
新潟　水野鉄君
伯爵　土方久元君
醫學士　●島村俊一君
醫學博士　●弘田長君
ドクトル　●須田卓爾君
●ミスヒユース
醫學士　●征川三男三君
醫學士　波多野惇君
醫學博士　●吳秀三君
八王子　和田義質君



私立大日本婦人衛生會山形支會々員之寫眞

婦人衛生雜誌第百六拾六號
（明治三十六年九月二十日發行）

演説

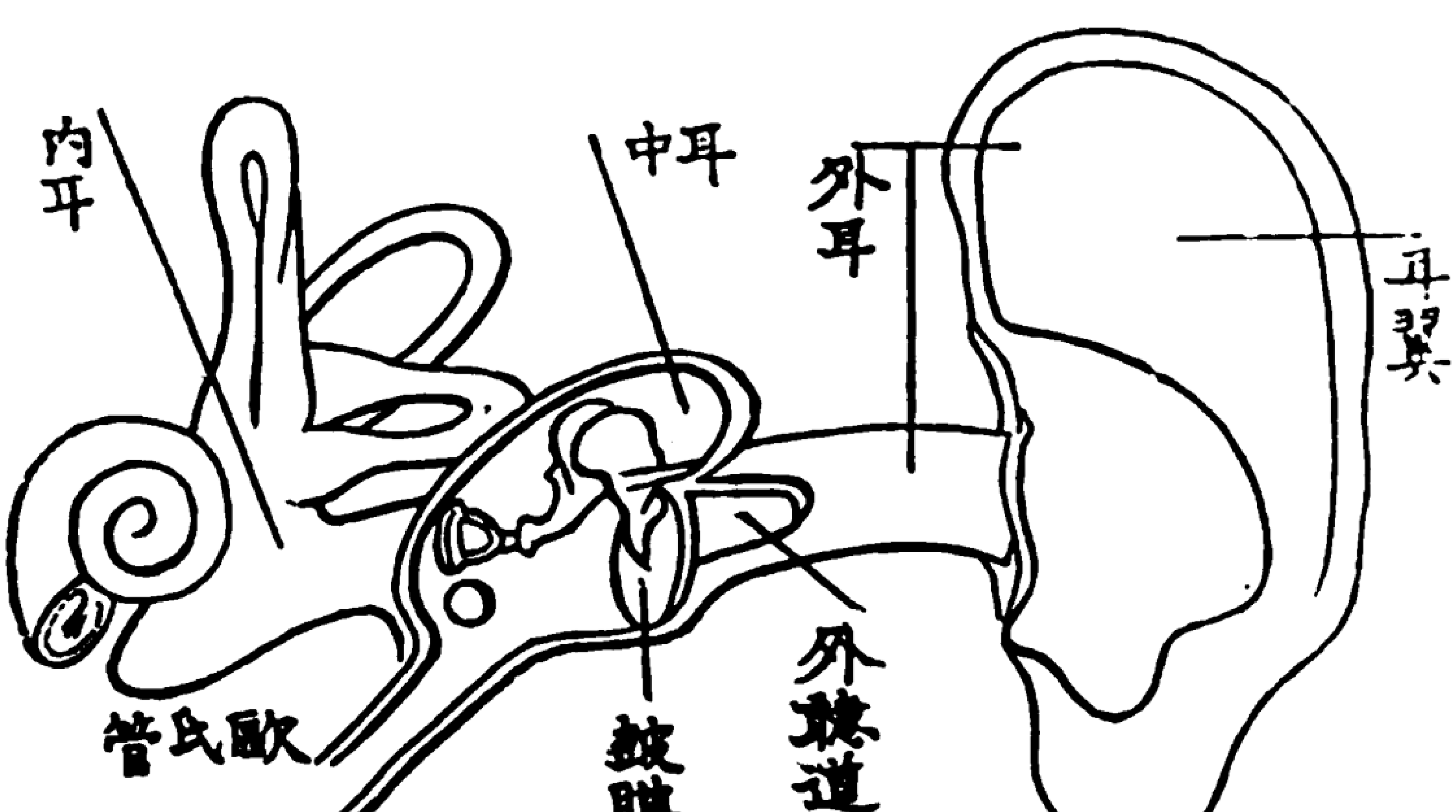
●耳の養生（於本會）

ドクトル　山上兼輔君口演
佃速記事務所員速記

貴婦人並に令孃方の御集りになつて居る此會に於て御話を申すのは私の光榮とする所であります、併し私の專門と致します耳鼻咽喉の養生に付きましては、是まで賀古學士、岡田博士等の詳しい御話がありましたにも拘はらず、私が本日耳の養生と云ふ演題の下で御話しやうと思ひますのは他の事ではありませぬ、耳の病氣は實に澤山ありまして、歐羅巴の大家トロッツと云ふ人の調べた所に依ると二十歳から五十歳までの人で、三人の中一人は必ず多少耳の聞えが惡くなつて居ると云ふ事であります、又子供に付てはどうかと云ふと、「ワイル」、「ベッオルド」と云ふ人の調べに依ると百人の中に三十人位あると云ふ、前と同じやうな成蹟で、實に耳の病氣は澤山ある、それのみならず危險でありまして、僅かな病氣のやうに思つて居ると、耳の方から腦に及ぼして、腦に膿を持つ病氣、即ち腦膿瘍、腦膜炎などを惹起して斃れたと云ふやうな例も澤山ありますからです、今日は其の一二の標品を御覽に入れる積りで持て參りました、一つは耳の外部に僅かな傷を受けまして、それが段々と中耳の方に及び、遂に腦の中に膿を持つて斃れたので、もう一つは、始めは風を引いて僅かな事と思つて居りましたが、それが爲に中耳炎を起して段々永びくに從つて、中耳の部分の骨が腐つて、それが仕舞ひには腦の方へ及んで腦膜炎を起して斃れたのであります、共に解剖して取つたのがありますから、あとで詳しく御覽に入れます。此樣に耳の病氣は澤山あり且つ甚だ危險であります、それでありますのに、世の人が何故に他の眼の

病氣とか、或は他の部分の病氣のやうに氣を注けないのでありませうかと申しますと、耳の病氣は是れまで能く分らなかつた、或は脳膜炎で死んだものても、耳の方から來たのか何か分らなかつたものですから人が耳を等閑に附して居つたのであります、それてありますから今日でも豫防さへすれば随分豫防し得らるゝのに、矢張その耳の病に罹つて苦しんで居る人が澤山ある、それ故に今日私は、是れまで大勢の御方が本會に於て御話になつたにも拘はらず、耳の養生を極く簡單に實例を擧げて御話しやうと思ふのであります。

それては耳はどんな所にあつて、どう云ふ風な成立で、どう云ふ働をして居るかと云ふことは、是れまで同業諸君から皆様方の御聴きに達した事てありますから爰には唯其の順序として(圖を示さる)耳の部分名稱のみを御話いたします、耳は外耳、中耳、内耳、此三つの部分に分つて居ります、さうして外耳の中には耳翼、外聴道を含んで居ります、中耳は外の方は鼓膜と云ふ薄い膜に依て外聴道を界し、内の方は薄い膜に依て内耳に通ずる、デ此方に咽頭が



ありますが、歐氏管と云ふ管に依て耳と咽頭と通じて居ります、さうしてどう云ふ作用をするかと云ふと、皆様御承知の通り音響を傳へ且つ聴く所の器械てあります、それて病氣はどの道から這入つて來るかと云ふと、第一は今申しました所の咽頭腔から歐氏管を通じて中耳へ這入つて來

る、もう一つは外耳の方から内耳へ這入つて來る、又もう一つは身躰との關係から耳へ直接に來る、此三つに外ならないのであります。

第一の咽頭の方から耳の中へ病氣が傳はるのはどう云ふ工合に傳はるかと云ふと、中耳は今申しましたやうに、歐氏管に依て咽頭に續いて居りまして、其中の空氣の壓力は咽喉内の空氣と平均を保つて居るのであります、それでありますから咽頭の方の空氣の壓力が高まる事が出來たならば、どうしても一部分は此管に依て中耳の方へ逃げて來る、逃げて來ると共に口の中、或は咽頭の中にある所の病氣を起すべきバクテリヤ、即ち黴菌とか粘液とかゞ、どうしても此管を傳ふて中耳の方へ押込まれる、平生どう云ふ事から咽喉内の壓　が高まるかと云ふと、物を食つたり飲んだりするやうな作用とか、或は咳嗽をする噴嚏をするどう云ふやうな事で咽頭内の氣壓が高まることがある、それでありますから口腔内或は咽頭腔などに病氣のある時には勿論、健康の時でも口の中、咽喉の中を始終清潔にしなければならぬ、其の清潔にするには何うするかと云ふと、齒を磨いたり含嗽をする、是は唯今まで世の人が毎朝之を行つて居りますが、之を朝行ふのでは衞生の目的には適しない、どうして適しないかと云ふと、人々は毎日不潔の空氣の中に奔走して居り、且つ種々な物を飲食すると、その色々の物が齒とか或は口の方々の粘膜の間に附いて居る、それを附いた儘にして置いて翌朝になつて齒を磨き口を嗽いだのでは、口腔内、或は咽頭の衞生の本旨には適はない、それでありますから朝齒を磨き含嗽をするのを改めて夜寢る前に行ふを良しとす、併し是は習慣で朝することになつて居るから、それは是迄通りするにしても、必ず寢る前にもう一度齒を磨き含嗽をするのが宜いのであります、それのみならず、三度の食事の後に普通の水で含嗽をする、簡易な藥劑を以て含嗽をするのは最も良いのであります、其他いろ〳〵な器械を以て鼻の中を洗ふことがあります、即ちイルリガートル

とかポイトとかを以て洗ふ、俗間では普通の水或は食鹽水を以て一方の鼻に吸込てん一方の鼻に出すか又は後鼻腔を經て口に出すことを致します或は鼻が少しつまつたからと云つて、無暗に強くかむやうな事を致しますが、此等は何れも一時鼻咽頭腔の空氣の壓を高めますから、咽頭にある粘液とか何とか云ふものが、歐氏管を傳はつて中耳へ行つて、急性中耳炎を起してひどい目に遭ふ者が隨分ありますから、さう云ふ事は十分御注意になつて爲さらないやうにしなければなりませぬ。

今度は第二の外部の方から及ぼす病氣、それは耳翼が劇しい寒さに遭ふと凍えて丁度刺すやうな痛みを生じます是は凍傷の初めてあるから、さう云ふ時には暖かい部屋へ導いて、さうして溫かい布を以て耳翼を擦ると舊にもどる、又それがもつと激しくなつて皮膚が感覺を失つて、普通の色でなく白くなつたやうな場合には、今度は暖かい部屋ではいかぬ、冷い部屋に導いて、さうして雪とか冷水とかを以て耳翼を擦る、徐々に擦つて溫めなければなりませぬ、尤もさう云ふ場合にはブランデーを布に浸して徐々に擦つてやると宜いのであります、それより何程度が進んだ時には、素人ではいけない、醫者の手にかゝらなければなりませぬ、日本でも北の方の寒い所に行きました時分には、綿とか頭巾とか云ふもので耳翼を掩ふのが宜い、北海道あたりでは皆な掛けて居りますが(實物を示し)斯う云ふ耳覆を掛けるのが宜いのであります、それから身體の或部分に非常に痒い腫物、濕疹などが出來た時分に、夜などに知らず識らず其の部分を搔いて其手を以て耳を搔くと、それが爲に身體と同じ病氣を耳に起すことがあります、是は子供に殊に多いのでありますから、餘程注意しないといけませぬ。

今のは耳翼の事でありますが今度は外聽道の淸潔法であります、從來金屬とか或は角とか木とか云ふやうな物で拵えた俗に謂ふ耳搔き、耳搔の無い時にはピンのやうな物とか、簪の尖端、さう云ふ物で耳を

搔く人が澤山ある、さう云ふ事をすると知らず識らずに耳の中へ傷が附く、何時傷を附けたとも知らずに居て、或時急に耳が痛んで來てさうして醫者にかゝる、醫者にかゝつて初めて耳の垢を搔いた時に斯う云ふ病氣を起したのであると氣が附くのが多いのである、外聽道の病氣の多くはさうです、それのみならず外聽道の非常に痒い病氣を糠屑疹と云つて、痒いばかりで痛くない、それですから病氣と心附かないで簪や何かで搔く、其爲に過つて皷膜へ傷を附ける、或は自分で耳を搔いて居ると、其時に子供が之に觸れるとか、或は物躰が之に觸れるとかした爲に、皷膜或は外聽道に傷を附けて中耳炎を起すやうな事があるから、是等は戒しめなければならぬのであります。

又御婦人方には少いのでありますけれども、男子では床屋へ行つて、毛を剃らして耳の垢を掃除をする、それが爲に外聽道に傷を附け、或は丹毒と云ふやうな病氣を移されることがある、床屋で傷を負けて急性中耳炎を起して、腦膜炎に變じて死んだと云ふ例もあります、餘程注意を要する事であります。

又子供を湯に入れる時に或る機會に依りて、小耳の所に二三滴の水が附くと、其水が段々に外聽道の下の壁を傳はつて中へ這入る、さうしますと外聽道炎とか、或は皷膜炎とかを起す、是も中々澤山ある、子供でどう云ふ原因で病氣を起したか分らずに專門醫の所へ來て初めて分るのが澤山ある、故に子供に湯を浴はせる時には綿を兩耳へ詰めて浴はせなければならぬ、又哺乳兒に、其の生母とか乳母とかゞ乳房から乳を飲ませる時に子供を抱いて飲まして居ると、子供が乳に飽くと、乳房を放して横を向く、其時に乳が出て居ると、横を向く途端乳が乳房から外聽道の中へ這入る、又乳を飲まして居る間に咳をするとか、嘔吐を催すとか云ふやうな事があると、前に申しました歐氏管を傳はつて乳が中耳の中へ這入つて乳酸醱酵と云ふものを起して中耳炎を起す、是等も注意しなければならぬ。然らば耳の垢はどうし

て掃除をしたら良いかと云ふと、年に一遍とか二遍とか醫者にかゝつて適當の洗滌法を行ふのが一番良いけれども一年に一遍や二遍ではいけませぬ、隨分痒い時がある、さう云ふ時分には（實物を示し）斯う云ふ器械（小綿棒）の一方へ綿を能く卷附けて深く入れないやうにして耳の垢を除掃する、或は斯う云ふ器械を殊更に拵えないでも通常の楊子でも宜しい、楊子の尖へ綿を卷附けて掃除をする、卷附けやうが惡いと尖つて出て居りますから危險ですが、五六度練習すれば直ぐ卷附けることが出來る、若も萬巳を得ぬ時があつたら耳搔の方でも極く淺くなら構ひませぬ、或は今のやうに綿を附けた尖へグリスリンと亞爾個保兒の合劑を浸して掃除をしても宜しうございます、それで唯今のやうにして耳の垢を掃除して居る時に、非常に固い耳垢の塊に當りましたならば、それを無理に取るのは極くいけませぬ、無理に取らうとすると外聽道に傷を附けますから適當の療治を受けないといけませぬ。

其次には耳の中の異物、耳の中に過つて色々な者を入れることがある、例へば小さい石とか、石筆とか、穀物類の豆とか米とか麥とか、或は小い蟲が這入る事がある、此處にさう云ふ耳から出した物がありますから後で御覽に入れますが、斯樣の物が耳へ這入つたならば直く氣が附くかと云ふとさうでない、二年も三年も知らずに居る事がある、或は直く氣が注くことがある、氣が附くと直ぐ取出さうと思つて色々な事をしたり、油などを耳の中へ注す、是は甚だ能くないのであります、直樣醫者に行つて適當の療治を受けなければいかぬ、併し此處にもありますが蟲などか這入ると中て躍り廻つて痛くて堪らない、醫者へ行くまでが痛くて堪りませぬから、さう云ふ時には煙草の煙を吹込むかグリスリンを注す、煙草の煙なら蟲が死ぬるですが、グリスリンなら虫の羽を濕しますから蟲の動きが止む、是は救急の處置てすがさうして置いて醫者の所へ行くのが良い。

俗間では歯の痛みを癒さんとて耳內に油を注すと

か、コロ、ホルムを入れることがありますが、是は効なくして害があるから宜しくない。

それから。只今栗本博士から御話があつた海水浴、或は游泳、是は耳の方から言ひますと色々議論がありますから何とも申上げられませぬが、餘義なくして海水浴や遊泳に行くやうな時には、必ず外聴道へ綿を固く詰める、さうしませぬと海水とか河水が這入つて中耳炎を起す、斯う云ふ例は澤山ございます、是は餘程氣を附けないとなりませぬ、既に耳の病氣がある場合には海水浴游泳は厳禁しなければなりませぬ。

それから第三に屬します耳の直接に病氣を起す事に付ては一昨年岡田博士から詳しい御演説がありましたから今日は省きます。

終りに臨んで皆様方に希望する事が二點でございます、其の一つは前に申上げました耳の養生を、皆様御自身は勿論、御召使の下女下男にも御注意を與へられむ事と、もう一つは多少耳の病氣があると云ふ事に御心附になりましたならば、成るたけ早く專門の醫者の治療を御受けになつて大事にならない內に癒し、又急性のものは慢性にならないやうに致したいと思ひます、斯う申しますと、無理なことと云ふ仰せがあるか知れませぬが、決して無理な注文ではありませぬ、唯今申述べました養生法の御注意如何に由りて爲し得べき事と思ひますから呉々も御注意を願ひます。

寄書

乳の種類

醫學士　竹中成憲君

世の中の事は多くは兩極端同一の結果を來すものなり食物を鹽にして置くときは腐敗せざる事は皆人の

知る所にして砂糖の同一なる事には一寸心得ざる人あり砂糖の防腐の効あるは砂糖漬の腐敗せざるに因て明なり一時は人躰の創面にまで砂糖を撒布して良効ありとせり

●煉乳（英コンデンスト、ミルク俗に「メリキ」）は此理を應用したるものなり蒸發に因て牛乳の水分を十分脱却せしめ之に蔗糖を加へたるものとす（加へざる者もありといへども此種は易く腐敗す）米國製鷲印を是迄最良とせり近來本邦に於ても其製造發達し既に商標の數も屈指すべからず内國製の例を擧ぐれば左の如し

▲日本一桃太郎印　▲大日本軍人印
▲内國製鷲印　▲鶴印
▲岩瀬牛印　▲象印
▲富士山印　▲大砲印
▲飴製燕印　▲花唐見印
▲金鶏印　▲爲朝印

外國製にして日本にあるもの左の如し

▲米國製鷲印　▲瑞西ネッスル製
▲アングロ、スウキッツ會社製人形印
（藍色人形印ト彩色人形印とあり）
▲熊印　▲八旗印
▲鴻ノ巣印

分析成績左の如し「人形」印は脂を去りたる牛乳より製せしものなるが故に脂肪の量大に少し是等は注意すべき點なり

種類	性狀	水分	含窒素物	脂肪	乳糖	蔗糖	灰分	分析者
米國製鷲印	帶黄白色	三一、三三	八、三九	九、四六	七、六五	四一、二九	一、八八	東京衛生試驗所
瑞西ネッスル製	仝前	二四、六五	八、四〇	九、八六	一二、四五	四三、五七	二、〇九	仝前
アングロスウイツス社人形印（劣品）	仝前	三一、三五	八、二三	四、七五	九、八四	四四、一四	一、八〇	仝前
以上舶來								
日本一桃太郎印	仝前	二八、六八	八、三六	九、四〇	一〇、三八	四一、三四	一、七六	仝前
大日本軍人印	仝前	三三、九五	八、一八	七、九七	九、三六	四六、六九	一、六七	仝前
内國製鷲印三ノ輪	仝前	二九、三七	六、八三	七、七五	六、二六	四七、四七	二、〇四	仝前
以上日本								

●全乳(獨語フォル、ミルヒ)　又は純乳とは天然の牛の乳其儘をいふ

因に記す牛乳のみを以て一人の大人が生活するとせば毎日三リッテル半(我二升)を用ゐざるべからず胃之に耐へず

●脂肪乳(獨語マーゲ、ミルヒ)　又(痩乳)とは全乳の中より乳酥(脂肪)を去りたるものなり

●乳酥(英クリーム、獨ラーム)　牛乳は乾酪素、蛋白素、脂肪、乳糖、鹽類及び水より成るものなるが之を安置し靜止せしむれば表面に帶黃色の油質浮ぶ是牛乳の脂肪即ち乳酥にして之より牛酪(バタ)を製す。上流のものは牛乳を食用に供するに當り牛乳を用ゐず此「クリーム」を用ゆ近くは「アイス、クリーム」に其例あり咖啡に入るゝにも之を用ゆ

●牛酪(バタ)　は乳酥に强度の振蕩を與へて之を製す牛酪三匁を製さむとせば全乳凡一百匁を要す故に牛酪は頗る高價なるものなり西洋に於ても貧民は之を價ふを得ず「マルガリン」と稱するものを代用す「マルガリン」は「パルミチン」及び「ステアリン」と稱するものゝ混合物なり「人工バタ」と稱す牛酪は二週間以内に腐敗するを以て牛酪百匁に凡三匁の食鹽を加へて之を貯ふ並等洋食店にあるもの是なり。上等料理の「バタ」は鹽氣なく白色なりとす、尤春となりて牛が青草を食するやうなれば此白色のもの造り難しといふ

●乾酪(英チース、獨テル、ケーゼー)　牛乳の成分「カゼイン」の凝固したるものなり全乳より作りたるものを脂肪乾酪といひ痩乳より作りたるを痩乾酪といふ前者は脂肪多量後者は脂肪少量を含む頗る滋養品なれども多量は胃之に耐へず。本品は多く球状の塊として發賣せらる黴びたるを良とすと粹士は云へど其臭氣たるや之に慣れざる本邦人は耐ゆべくもあらず恰も洋人が我澤庵漬の臭氣を恐るゝと同一

●「ケフイール」　醱酵したる牛乳なり

元カウカサス(裏海と黑海と間の狹所の高山)の製法にして「ケフイル」菌なるものを牛乳に入れて製す濃厚にして「クリーム」の如し醱酵の度に因り一日ケフイル、二日ケフイル、三日ケフイルありアル

コールは凡百分の二、一日のは下痢し三日のは便秘す砂糖加ふるも可

糖尿病患者に牛乳の代りに「コップ」にて内服せしむ一日五合内外本品中には砂糖なし砂糖は即ち「アルコール」と炭酸とを分解したればなり通俗の紙上左の記事を見る東洋にても用ゆと知られたり

▲牛乳製の酒　蒙古には牛乳より製する酒あり其の製法は牛乳に少々水を混じて一回沸騰しそれに蓋をしておけば醗酵して酒に變するなり支那人がモンクチュー(蒙古酒)と稱するは即ち之にして最も味ひ頗る美にして之れに醉ふも所謂惡る醉なるものなしといふ

●酸乳(ザウレー、ミルヒ)　塵埃なき場所に一日乃至四日間牛乳を放置して製す黑「パン」及び砂糖と共に之を飮用す

●乳滓(獨語モルケン)　牛乳二〇〇、〇に「ラーブ、エスセンツ」(牛の胃より得るもの)と稱するもの一、〇を善く混じ之を四十度に熱して安置し凝固したれば牛酥を除く是「モルケ」なり故に「モルケ」は牛乳より「カゼイン」及び脂肪を(少量を殘留せしめて)引去り倘鹽類の一部を除きたるものとす其の成分左の如し
(「エスセンス」の代りに酒石酸〇、三瓦にても可)

水	九三、二四
カゼイン及アルミブン	〇、八五
脂肪	〇、二三
乳糖	四、七〇
鹽類	〇、六五

鹽類の主なるものは食鹽及び燐酸加里なり故に滋養品にはあらざるも之を多量に服すれば新陳代謝を盛にするものとす一日凡一千瓦(我五合)を溫めて内服せしむ歐洲に於て肺結核療法に之を専門的養生園

●「クミース」　元來醗酵したる馬乳にして露國最も多く「クミース」を用ゆ乳糖を多量に含むの外優點あるにあらず或る地方に於ては之を恰も「ビール」の代用として賞用す獨逸にては「クリーム」(ラーム)を去りたる牛乳より之を製す其法は先づ牛乳に壓搾釀母(プレス、ヘーフエー)なるものと少量の砂糖を入れ善く振盪し寒冷なる場所に置き一日乃至二日間醗酵せしむ瓶は密閉す
用法「ケフィール」と同一なり

或通俗の新紙に左の記事あり

▲馬乳製の酒　中央亞細亞の北部キルギス人は如何なる動物の乳

ても飲み、馬の乳よりは「クミス」と稱する酒を製せり、其製法は馬乳を羊の皮の嚢に入れて振り暫く其儘にしておけば醱酵して酒に變するなり、一寸異臭あれども味頗る美にして又衛生上極めて善良なる品なりと、殊に貧血症の如き又筋力の疲勞し易き者には特効あり同地方の露西亞人は之を賞味する由、又其馬乳製の酒よりアルコールを製する由なるが非常に强きものなりと

●驢馬（獨俗デル、エーセル）の乳は（水分と固形分の比例人乳に類す）

●山羊（やぎ）の乳亦良しと聞く左の記事を通俗紙上に見たり面白し

▲山羊と牛の乳汁配達　伊太利のミラー市では山羊や牛が自身で乳汁を配達して歩てゐる、山羊は五六頭乃至十頭一群をなし、銘々頸に鈴を吊しちやらん〳〵と音させながらぞろぞろ歩いてゐると、其音を聞つけて娘やお婆さんが器物を以て家から飛出し其の群には必ず乳汁屋の主人なり番頭なりが一人附いてゐて、即座に其の器物に乳を絞込んで代價を受取つて、又ちやらん〳〵と出かけて行く、此の一群の數が十頭とすると中に三四頭位ゐは鈴を吊してゐないのがある、其等は孰れも牡であつて、女房が稼ぎに出る、亭主が其後からくつついて行くといふやうな寸法、乳牛も是れと同じ方法で矢張鈴をくつつけて門並のこ〳〵歩いてゐる、がこれは大きいだけに頗る滑稽に見える、此の遣り方はミラーが最も盛んであるが、同國及其他の都市西班牙、葡萄牙あたりでも往々見受けることがある、新鮮な乳汁を賣るに此れほど確な商賣はあるまい

●羊（ひつじ）の乳　用ゐざるにあらず豚も亦可なりといふ左の記事を見たり

豚の乳　佛國の一農家の女イナユークといへるもの豚のちゝの小見に卓効あるを發見せり同女が預かりて養育する小見には凡て之を與ふるに何れも身體偉大にして且つ肥滿せり

乳の種類は上記の如し何れも皆二三を除く外西洋に於ては常用するのみならず醫療に供す本邦に於ては之を試むるものなし故に本邦人に適するや否や不明なり予は追々此流行を見るべしと信ずるが故に特に一言するの必要を感ぜり（完）



○婦人とこども

醫學士　唐澤光德

●乳ののませかた

乳の飲ませ方は初じめて御產をなされた方には、なか〳〵むづかしい事で、充分の忍耐と注意とを要します、

第一に乳嘴は直接に小見の口中に入いるものですか

ら、極めて清潔にしてをかなければならない、のませる前には常に清潔な水、アルコホル等で拭き、母の指も亦清潔に洗はなければなりません、

一番最初小兒に哺乳をさせますには、母が別段病氣がない、また其他の支障がない限り、産後十二時、晩くとも二十四時間たつと、初乳が出て來ますから哺乳をはじめます、まづ以上の如く清潔にした乳嘴を、中指と人さし指との間にはさむで、初生兒の口内に入れ、乳房を少しも無樣にして、初乳を乳嘴からはしり出て、自然と小兒の口内に流れ入る樣にする、

此際殊に注意すべきは、初生兒の鼻を、乳房の爲にをしつけて、窒息させない樣に、指て注意しなければなりません、一躰大抵の兒は母の左方の乳房で最初は授乳すると、よく乳をのみますが、そは母の左手の乳房をのむ爲に、小兒が右下に横になります爲腹内の肝臓が下つて腹だの、胃だのを壓す事が少いからでござりましよう。

一回の哺乳時間は强壯な小兒て、七分乃至十分、弱い子は十分から十二分かゝり、まるで蛭に血を吸はせた時のように、のみ飽きれば自然とやめて、睡むりますが、小兒が吐乳をする時などは、此時間を短ぢめて、何度にもやつた方がいゝ。

よく世間で見受けるように、母や乳母があまりに子供を可愛がりすぎて、一度に二十分－半時間なども乳房にとりつかせ、のませてをくのは、小兒に惡い習慣を與へ、またのみすぎをさせて腸胃の病を引き起こさせるばかりでなく、母の方から云つても、あまりに過多の乳を分泌しますから、身躰が弱つて夜分はぐつすりねこむ樣になり、抱いてゐる小兒を壓しつけ、甚しい時は最愛の兒を窒息させる原因てござります。

●睡　眠

かく赤子は乳を飮んてしまいますと、其子が健康てある限り直ぐねてしまいます、此睡眠、生れたては夜に晝の別ちなく、乳をのむ時の外はすや〳〵とね

むつて、恰かも赤子の職業とでも申すべき樣な此睡眠は、赤子によりて非常に必要な事で、そが腦髓の發育をよくし、胃の消化をすゝめるものでございます、故に乳をのませてしまわれたら、また其赤子を元の樣に臥床に横にされるのが最い、乳をのませた後、大人の樣に、運動が不足では消化が足りはしないかなどの杞憂を抱かれて、腕にかゝへて戸外を歩んだり、またはゆすぶつたりせらるゝのは、極めて好ましからぬ事で、そは單に赤子に乳を嘔きやすくさせると云ふ危險があるばかりでなく、小兒をやかましくならせ、其身體の發育に非常な障害を與へます。

尤も此ねむる時間も年齡に應じて一概に申されません、以上は單に生れたての赤子に就いて申したので、其睡眠時間も小兒の精神と身體とが發達してまゐるに從つて、漸く減少して、一年の終り頃には平均十六時間位、二年の終り頃には十二三時間位となつてまゐります、また常に小兒をねかしてをくべき期限に就きましても、別に之と申す規定もございませんが、ある經驗ある歐洲の學者の言によりますと生後少くとも五六ケ月間、もし出來得べくは十ケ月位もねかしてをいて、赤子のまだ薄弱な肩や脊の筋肉の發達を害さない樣にされた方がいゝと云ふ位でございます。

●小兒大小便

現今の醫學上大小便の檢査は必要な事でございます小兒の診斷と治療に向つては大人よりも遙かに必要の條件で、近來非常な發達を致しましたが、あまりくわしい事は通俗には必要がないから、只單に御注意丈を擧げますと、

大便の方では、其色と、臭と、量と、一日の回數、水分の有無と、大便内に顆粒と粘液とが含まれて居るや否やに注意せられたい、例へば色は通常の母乳で育つて居る小兒の便は卵子の半熟の樣に黄色ですが、そが身體の工合の惡い時には白くなつたり、緑色になつたりする、また臭も平常に殆んどないが、

病氣の時は非常な臭氣を放ちますから其臭氣の有無水分の有無とは、或は「おかゆ」の樣だとか、水の樣だとか云ふ事でござります、顆粒と粘液、そは平常の健全な兒童の大便にはないものですが、少し腸胃の疾患にかゝり、消化のわるい時には大便の中に必ず現はれてまゐります、顆粒とはづふ〳〵の事、粘液とは彼の鼻汁か、水飴の如きもの、之等の有無は醫師に診斷を受ける際極めて必要の事でござりますから、常に怠らず御注意を願ひたい。

此際一寸御注意をしてをきたいのは、醫師に自己の愛兒の診斷をうけらるゝ時の事で、よくありがちの事ではござりますが、母親自己の醫師の許を訪ふのが面倒だとか、よし面倒ではないにせよ、自分が多忙であるとか云ふ譯で、孔母だとか、甚しき時は子守などに自己の愛兒を托して醫師の診斷をうけさせる事が少くない樣に見受けます、そは非常に不都合な事で、小兒の疾病を診斷する事は大人を診斷する時と、大に大趣きを異にしてをりますから、其兒童の從來の狀況、例へば保育の方法とか、平常の樣子とか、病氣にかゝつてからの樣子其他を悉しく知る事が病氣の診斷に非常な關係があります、然るに眞際に毫も保育に關する知識のない、云はゞ觀察眼のない乳母だの、子守だのをよこされて、何をきいても一向不得要領、遂に委しき診斷を與へ得ぬ事が少くない、そは敢て位置の有益に關せない、否むしろ位置か進まれたる婦人に向つて御注意申してをきたい事でござります。

小便の方も、其回數と量と色丈は注意せられたい、尤も量はとても充分には御分りにはなりますまいが、回數は「しめし」をとりかへられた回數で、おわかりになり、色も其際に注意せらるればよろしい、病氣の種類によれば回數も量も減つてゐるものがござります、色が變化するのは重い病氣の證據で、近着の雜誌に、平常別に變りのない小兒が急に赤い血の樣な小便をもらし、急に衰弱して來て、驚いて醫師の診斷をうけましたら、其臥床の靑い拭布に亞砒酸と

云ふ劇毒が含まれてあつたのを發見されたと云ふ事がござりました、其他有害な色素を使つてある頑具を渡してある時に、小見がそれをなめてよく重い中毒を起してまゐる事がござりますが、此際に一番先きに小便の色にかわりがまいることがござります。

●正　誤

前々號哺乳の時間の項中生れたての小見には三時間毎又は三時間半毎、少し大きくなつた小兒には二時間又は二時間半をきに」とあるは、其反對にて、生れたてには二時間又は二時間半をき、少し大きくなつた小見には三時間又は三時間半をきに」の書き誤りに就き正誤す。



醫學士　石原喜久太郎

●携帶藥の種類

病後轉地療養の節に醫者から一週間分とか二週間分とかの調劑を貰ッて往く方があります、是は直接其醫者からの注意があることですから、別段詳しく申上ぐる必要はありません、それから、左に二三の藥劑のことを掲げましよう、僅かですから順序も立てません。

(一)氣付藥　是は醫者の方で云へば、マヅ興奮藥の内に算ふるものですが、容易に求め得らるゝものでしかも、危險も無く、害も無からうと存じますのは寶丹の類とか、淸心丹の類です、是は賣藥でありまして、賣藥は凡て、害になる藥は除いてあり、また

劇藥の類は極々少量しか用ゑさして無いのですから左程危險はないのです、如此種類の氣付藥は持出して、そして、氣持の變になッた時には服用しても差支は無い（重い病氣の時は別です、醫者を招かねばなりませんが）今一二の例をもッて云へば、箱根などへ往ッて、少し空腹を忍んで、山へ登り疲勞の甚だしき爲め腦が苦しくなり氣が變になッた時とか、溫泉に入り過ぎて、あとで氣が變に感ずる時などです、序にのべますが、こんな場合には靜に仰向けにねて、胸を明け帶を解き、頭を冷やし、胸を冷やすなどを同時にする、それから、若し病人に藥をやるならば、無理に咽に入れてはいけない、誤ッて氣管支の方に押し入れると大變です、病人が呑まない時には無理に呑ませてはよろしくない、如斯時は胸をクッロガセ置いて頭や胸を冷やし、早く醫者を招くより他に道がないのです、

右の氣付藥の用法は大抵効能書にあります、多く呑んでも害のないだけに調合してある筈です、此ほかの藥は、賣藥には、マヅ、ありません

（二）含嗽藥　是は季候のかはり目などに咽を痛める癖のある人、寒冒と同時に咽を痛める人々がお持出しになッてもよからうと存じます、有効無害の藥は重炭酸曹達一瓦に食鹽（燒鹽）を一瓦まぜ、之に水を百瓦を加へて溶かし一日五六回以上も含嗽をする、（一瓦は日本の目方にて二分六厘に當る即ち約四瓦が一匁なりしかし水は升目にて計りて百瓦は五勺五才に當る）其ほか含嗽藥は硼酸もよし、之は二瓦に水百瓦を加へ溶かして用ふ、硼酸ならば溫湯にて溶かせば早く溶けます、曹達は熱湯を注いではいけません其他鹽酸加里も含嗽藥に用へますが是は劇藥であり、火を引き、また誤ッて多量を呑めば危害がありますから醫者の注意無き所では用へぬがよろしいのです、重炭酸曹達や硼酸は通常藥であり、害を來すこともなく、又含嗽には効があります、此曹達と食鹽とは別々に小瓶に入れて貯へ、硼酸は紙袋に包んで持出してもよろしくあります、

(三)寒冒の藥　寒冒も本當の寒冒ならば誰ても知れますが、しかし、コイツが仲々厄介てす、前にも述べました通り、他の重い病の初めが、寒冒に能く似たのがありますから、唯の寒冒と思ッても御用心〳〵、出先て寒冒にかゝれば靜かに休む別段に苦しくなければトニカクてすが、頭痛がひどいとか寒むけがひどいとか、またお腹が下るとか三十八度以上の熱があるとか等のことなれば早速醫者にかゝらなければなりません、是は寒冒てなく他の病氣てあるかも知れませんからてす、また皆さんが唯の寒冒と御思召しても、三日も四日もなほらん時は是非とも醫者に診て御貰になることを冀望致します

右のことをお斷り申し置いて、扨て寒冒の場合にドンナ藥を用ゐて効あり、且ッ危害無いかと申すのに賣藥にも寒冒の藥になる「アンチピリン」とか「アンチヘベリン」の調合したのがありますが其分量に就ては危險を妨ぐ爲めに有効量とも云ふだけ入れることを許して無いやうに聞いて居ります、夫故、寒冒の藥は、ドウカ醫者に作ッて貰ッてお持出しを願度いのてす「アンチピリン」「アンチヘブリン」共劇藥の部類てすか、今述べました通り、四ッの事が無い場合には「アンチピリン」ならば素人てお用へになッてもよからうと信じます、(しかし醫者が私の考と反對ならば、イケマセンが、呵々)分量は大人て、一回〇、五瓦を度とし一日三回はよろしからん、けれども、六七才以下の小兒の手療治は固く禁じます、小兒えの投藥は決して素人が致してはなりません、寒冒藥はお持出しになるがよからうと存じます次に

(四)腹痛止めの藥てす、急にお腹が痛んて辛抱の出來ないやうなことがあります、私は腹痛どめの藥は年中何處にても持ち出して居ります、自分ばかりてなく、他人にも度々必要が起ッたことてす、此藥もお持ち出しあッてよろしいと存じます、けれども此藥は、必ず醫者に御相談あッて其の注意により作ッたものてなければなりません、是は分量が六ケ敷い方の藥てすから素人ては出來ませんし藥も得られませ

ん、元來お腹の痛むには色々の原因から起りまして、お腹の痛む場合には、醫者を招くの必要があります、けれども、夜分深更でありまた、痛みがひどくて、一分時間も耐えられない場合には、痛み止めの藥をのむより他に道が無いのですそれ故、最も携帶藥の一ッとしても宜敷事と存じます、又小供のお腹の痛む場合は、藥をやッてはいけません、必ず醫者をよぶに限ります、

(五)下痢止めの藥　是は素人で用いては宜敷ないと存じます、唯念の爲め注意までに申述べますれば、人が下痢をする、下痢の原因は色々ある、惡性の病氣では虎列剌病にもあり腸窒扶斯病にもある其他色々ある、所で下痢止めの藥です、これは素人で用ることは甚だ六ケ敷いのです、何せかと云ふに、病氣によッては、たとへ、下痢がある場合でも、更に下劑をやッて下しをかける必要があるのです、これを知らずに、初めから下痢止めを服用するのはよろしくない、素人のお方には、こんな見分けは仲々出來ないのが當然です、夫故、下痢のある時は、必ず醫者に見て貰はなければならぬのであります、

(六)便秘の時　便秘の療法も仲々六ケ敷のです、醫者に相談せねばならぬことですが、私は、唯、玆に二ッを限りてお話申します、ト云ふのは、實際に、脚氣に罹ッて轉地してゐる人が便秘する場合に、別段お腹も痛まず、又お腹が膨れもしないし他に是と云ふ苦みのなくて一日も二日も便秘する時は、自分で通じ藥を飮んでもよからうと存じます、夫は、硫酸麻偶涅矢亞十五瓦乃至二十瓦に(苦味丁幾五瓦を加へてもよし)水二百瓦にて溶かし、これを一日三回、空腹時に服用するのですかくして毎日一二回の通じは差支なし、

今一ッは脚氣でなく婦人方の常習便秘の場合に微温湯「リスリン」食鹽水等の灌腸を行ふことです、是は多分本誌にのせられたることがあらうと存じますから詳細は今申しません此二ッの場合には素人療治でもよろしい事と信じます、

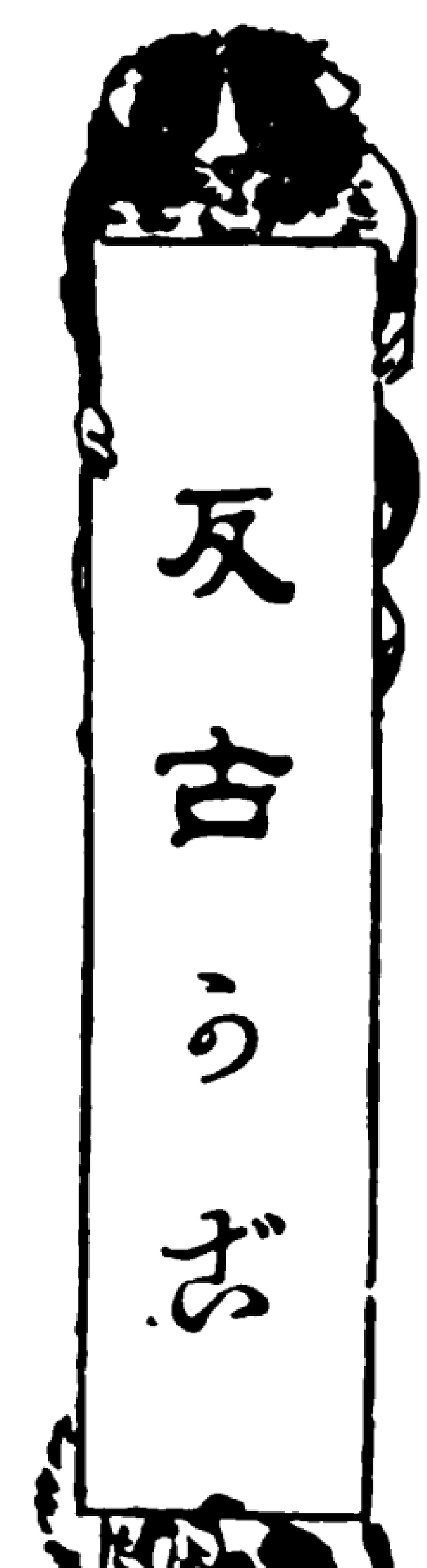
右のほか携帶藥の注意につき毒蛇毒虫に刺されたる場合の手當は米山君と久保君とがお書きになりましたのですからあれを御用ゐになることを願ひ升、

●旅宿の枕と夜具と

短期の旅行上の注意ですが、近頃上等の旅宿ては夜具や枕に白布を被ふてゐるやうですが、トニカク旅をして宿に泊るには、自分て枕の被と敷蒲團に敷く「シユーツ」とそれから掛夜具の襟の處を下から上に被ふべき、白布とを携帶致されまして、少々面倒てしようけれども、是等の物を被ふて、寢に就かれんことを冀望します、多少これて病氣の傳染を防ぐ手段ともなりましようと存じます、夜具の襟被は、大幅の長さ二尺位ある金巾か、大なる西洋手拭ならばよからうし、枕被も枕相當小さき布片なら結構てす、尚ほ他にお話申上度い事もありますが長くなりましてお退屈と存じ、是て御免を蒙ります、

附言　先回鳥渡お話致した病室の注意は何れ詳細を例會て述べる考てあります、

旅行携帶藥は嘗て三宅先生御所持の西洋て出來た分を拜見したこともあり、又私の友人が、向ふから歸る時に求めて來られたのも見まして大に參考になりました何時かほんものにして一般の實地應用に供し度い考へてす、



醫學士　愚哉生

●日本婦人の種属美

ドクトル、リヒユス

日本婦人は美なるか、日本婦人の身體は果して、美てふ吾人の觀念に該當するか、此の如き問題は、此國民の夫人及處女に就きて、人種學及美術上の立脚地より判斷を下さんとする時に際して、時々引き起さるゝことなり。而して此問題を解かんが爲には常

に彼のコンフテウス氏が「各物皆其美を有す、只各人は其美を見ざるなり」との言語を思考すべし。

日本婦人の美を知らむと欲せば、或は其活ける婦人に就きて、或は信用すべき肖像によりて極めて緻密なる比較的研究を爲さゞる可らず、亦解剖學及美術家的眼光を以て、此自然美に向ひての觀念の甚しく發達せる、愛すべき國民の婦人を觀察するを要す。而かも此研究たる、蓋し吾人の一大急務たらむか、西洋の文明は非常の速度を以て日本國内に進み、已に此の日昇國の多くの根本的なる特種故有の事實を拭ひ去らむとす、此の如き國民、同等の速度を以て漸次、混種、を形成し、同等の容易を以て他國の文明的影響を自已に吸收し、同化したる國民は稀なるべし。

幸にも身體は、此の如き事情の影響を受くる事少なくして、一國民の特質を溶解すべき影響と最も永く否定し、他の風習、器具、宗敎的及社會的特質の如く、容易に感化を蒙むるものにあらず。

日本婦人の身體的性狀に就きては、吾人は已にウヱルニケ、ベルフ及テン、カテ氏等多數の研究を多とする者なり、近時又ストラッツ氏（ハーグ）の著あり、「婦人體軀の美」「種屬美」及「婦人の衣服」等に就きて研究せられたる餘を、此日本婦人の上に注意多き觀察をなせり、氏や已に永年前ジャバ島に於て氏の人種學的人類學的試驗を開始したる人。嚴格なる醫學と美術―美學の範圍と結合せんとせる唯一の才人なり。

日本婦人を學んとせるストラッツ氏は遙かに其域を浸して、一部は東京横濱及多數の街路より隔たれる處に於ける自已の觀光と觀察により、一部はベルリン、ハムソルグ及ライプチヒ博物館内の寫眞より一部は民自已が蒐集せる繪畫により、日本婦人の理想的及普通の肖像に就き、其美に對する觀念及粧飾家屋の内外に於ける生活時の裸體畫に就きて紹介せは。

日本婦人は決して簡單の人種ならず、吾人の明かに

二種を區別するを得べし、一は黄色なる純蒙古人種即ち薩摩種にして、一は白色、マーカサス人種に屬する長州種なり、此他尚二万のアイノ人種あり、此間に於ける雜種少なからず、然かれ共亦歐羅巴馬來雜種なり後者は甚著しき事實なるが、遂に充分なる説明を發見せざりき。

重なる兩種は各特有の特色と以て直ちに判斷するを得べし、長州種は蒲柳の質なり、此種に屬する日本婦人は所謂美麗なる皮膚を有し、細き長き顔、美しく光かりたる高き細き鼻、大なる裂けざる傾めの眼たてやかなる姿を有す、簡短に云へば其樣甚我美しき歐洲婦人に相類するものあり、薩摩種は全く之に反し其「モンゴリヤ」人種的幅廣き圓き顔、少しく大なる口、小さき可笑しけなる眼圓くたちたる體軀は少しく野蠻なる人種の如く、其幅廣き低き鼻と、うずたかく出張りたる唇とは其特有なるものなり、此兩種の間に立ちて、其日本國の中央部に生涯するもの、即他國人種交通の中心なる都會に生活するもの、多數は雜種に屬するを常とす。

多數の觀察により上流に屬する日本の所謂美婦人に就き、其理想を察して、公平なる判斷を下せは其美てふ觀念次の如し。

頭は其比較的短少なる體軀に比して、大なるべく。

細き美しき顔、鼻少しく幅廣く、平らかにて。

顴骨(頰骨)のあたり幅廣く平らかにして、其中央の顔の面の低からざる。

眼眸は上外方に傾に向ひたる

額は其黑き滑らかなる毛髮の爲に狹き

上唇 は日本婦人の五十%に於て欠けたる

えり、肩及腕はよく肥え太りて其美を現はしたる

樣子やさしくして、姿なよ〳〵したる

手足の小くして可愛ゆき

腰あまり出てず、我等の理想によれば、少しく細く小さに過ぎたる

躰格のあまりに肥太たらざる

は其美人たる資格にして、其脚のあまりに短き、且

内方に向ける醜き位置は、たくみに長きぴだある衣服にて掩はれぬ、日本婦人の衣服(きもの)は恰かも畫かけるが如く、其常にとれる、坐位に於て極めて相應しゝ。毛髮の注意營養、かみのゆい樣等は極めて注意せられ、其天鵞絨の如き軟かき膚は、頻回の入浴によりて淸めたる。ストラッツ氏は氏の總躰に向ふての判斷を下して、日本婦人は完全に美と稱するを得ずと雖も、身躰美の少なからぬ特質を有せりと云へり。

故に日本人の美觀は極めて高尚に、特異に發達したる事、其國民の肖像及繪畫によりて示さるゝが如し其先天的の美觀、日本人の鋭き、自然の觀念はまた其質朴なる氣風と相結合して、婦人界に於ける一種の貞操となれり、日本人は故に裸躰畫を好まず、また詩歌等によりて自己と讃美せらるゝを欲せず、之れ一は其顏色、姿勢、及運動の狀況に由來し、一は衣服の風習と、眞美とを慮かるによれり。

吾人の風俗改良運動の起りたる已に數世紀より日本婦人は比較的に、其繪畫種衣服を應用する點に於て魁したるものにして、其身躰殊に躰軀に向ひての人工的粧飾は有せずとするも、一般の粧飾は皆繪畫を規とし、其外部の粧飾、衣裳、毛髮、皮膚及齒牙の育養等皆その因らざるものなし、故に臙脂と白粉とは彼等に常に欠く可らざるものにして、其裝飾に向ひても理想と、人工的粧飾の意思とは、彼等が容義上累代の氣質なりと云ふべし。

●身躰の發育と學校成績との關係に就きて

ドクトル、アー、シュミット

學校に於ける學事の進歩と、身躰の發育との間に、注意の關係が存在するや否や、言換すれば大なる身躰の發育は一般によき精神上の實力と相一致するやの疑問は、種々の階級により漸次昇級する制度の學校生徒に就きて頻回試驗せられたる處にして、露西亞國に於ては、グラチアノー氏等多數の學齡兒童及

運動者に就きて測定を施し、遂に學校に於て可良なる成績を有するものは、其各の年齢に於て、他の同年齢の成績不良なる兒童に比較し、身長の一般に大なるを認め、同じ試驗を北米に於てはポルステル氏等執行したり

ポルステル氏の測定はセント、ルイに於ける、八階級の小學に入學せる三萬三千の兒童（男子及女子）及幼稚園及中學の學童に就きて執行し、結論として同年にして高級に屬するものは、平均多大なる軆量を有し、劣級に留まるものは平均小量の軆量を有するを報告し、身長、胸圍、頭蓋の横經等皆之に從へるを報告せり、

シユミツト氏は一九〇二年五月（昨年五年）ボン市に於て四千二百六十名の兒童に就きて研究し次の結果を得たり、

氏の從事せるボン小學校は全七級より成り、其年齢に對する各級の關係は次の如く。

第一表　年齢

學級 年齢	5—6	6—7	7—3	6—9	9—10	10—11	11—12	12—13	13—14	14—15	合計
I						1	35	136	141	3	310
II					2	29	124	52	21	I	249
III					46	129	53	16	6	—	250
IV				58	195	46	20	11	3	1	334
V			86	185	34	10	3	3			321
IV		66	215	45	14	1					341
VII	79	207	23	4							313
合計	79	293	324	292	291	336	235	212	171	5	2118

各級に於ける學童の年齢に對する身長及躰量は次表の如し

第二表 女子

學級 年齢	9—5	6—7	7—3	8—9	9—10	11—10	11—12	12—13	13—14	14—15	合計
I							46	110	105	1	262
II						41	102	52	27	3	225
III					58	152	74	26	7		317
IV				52	149	50	19	8	4		282
V			72	202	49	16	5	2	1		347
VI		56	200	45	18	1					320
VII	97	233	57	7							389
合計	97	269	324	306	274	260	246	196	144	4	2142

第三表 男子

	5—6		6—7		7—8		8—9		9—10		10—11		11—12		12—13		13—14	
	身長（糎）	躰重（瓩）	身長	躰重	長	重												
I													138	33	143	35	146	37
II											135	30	137	31	139	33	145	36
III									131	28	124	29	135	30	138	32		
IV							125	25	128	27	129	27	131					
V					121	24	123	24	127	21	131	26						
VI			116	21	115	22	115	22	124	25								
VII	109	19	112	20	115	22												

第四表　女子

	5—6		6—7		7—8		8—9		9—10		10—11		11—12		12—13		13—14	
	身長	躰重	長	重	長	重												
I													138	32	146	36	148	39
II											133	30	137	31	142	35	145	36
III									130	28	134	29	136	30	141	33		
IV							125	25	128	26	130	27	134	29	137	31		
V					124	23	124	24	124	25	130	57						
VI			115	21	117	22	119	22	123	24								
VII	110	19	113	20	115	21												

身長及躰量に於てよく發達せる兒童は、又精神上の事業にも耐え、彼の健康なる精神は、健康なる身躰に宿るてふ語の經言にあらさるを覺えたりと、趣味ある統計と云ふべし、

婦人の疾患職業に就きて二三

ドクトル、シュルペル

一定の職業の種類が其結果として一定の疾患を起し、少くとも其疾病を起され易すくする事は、統計によつて明らかであつて、一定の職業では高齢に達する事も出來るし、一定の職業では其生命を縮めるものもある、例へてみれば僧侶、園丁、教員などは平均長齢に達するが、藥種商、醫師、印刷人、辯護士などは明かに短命だ、此原因は、非常な身躰的及精神的の勞働や、密閉した室内にある事や、塵埃だの、有害な瓦斯を吸入する事などが、病を引起させやすくして、身躰の抵抗力を弱め、又生命を縮めるに到るのである。

假令婦人の醫師も少ないし、辯護士も今はないが、婦人の職業上、夫れ等の關係を尋ねて見ようか、婦人で一番多い職業は手工者即手で細工などをする職業である、此手細工等を職とするものに就いて英國の醫師、ジエーマス氏が調べて見た所が、手が一番よく使用せられる樣になるのは、段々經驗すれば三十歲の折が一番よく熟練の域に達するもので、もし其人が健康なるは四十歲迄はよく働かれるが、夫れからは漸次弱はつてくると云ふ事だ。て此手の職業に從事するものは手の年齡を充分延はす樣に、常にいたはつてをかねばならぬのであるが、哀しい哉其心配も平生の過勞、不攝生、不適當の仕事などによつて遂にはむだになつてしまつて、遂には手の疾患を起し、其職業を廢める樣になる事が少くない。簿記、通信、敎師、製圖等の職業に從ふ婦人によく來るのは書字痙攣で、常に續けて字を書く爲とか、身躰の姿勢を惡くしてゐる爲、又は筆の持方が惡かつたり、あまり堅い筆、あまり細い筆を握る爲に起つてくる痙攣で、筆を持つて書かうとすれば手たの前腕がふるへる、甚しい時は手が堅くなつて宛かも痲痺した樣である。之は主に堅い筆を握る爲に起るのであるが、之と同し樣な病が音樂家にもくる、奏樂痙攣と云つて、音樂の女敎師が「ヲルガン」でもひかうとする時に却ちに手が堅くなつて彈けない事かある、又縫工等に「ミシン」で物を縫ふ際に起る裁縫痙攣など、いづれも重くなれば痲痺、痛み、知覺の異常などを手に起してくる。

此の樣な痙攣は又電話に從事する技手にもよくくる、電話痙攣とても云はうか、總べて之等の病は重に過度の勞働によつて來るもので、單に痙攣ばかりでなく、音樂家、女俳優、電話技手などは、精神上の過勞が原因となつて神經の疾病例へば神經質、神經衰弱などを起しやすい、皆非常の骨折だの、心配だの感動だのが、其初めとなるのである。

それだから、之等の病の治療法としては、永い間數月間位も、今迄なれてゐた職業をやめて、其病の快

く癒ゆる迄保養させるのが一番いゝ、其他電氣療法、冷水浴、一般に身体を強壯にする事、湯治、牛乳療法だの、殊に神經の爲には「マッサージ」が最よくきく。

「マッサージ」では手の各の筋肉又は筋肉の屬をもみ、手をたゝいたり、もんだりする事によつて強くし、電氣療法では一般に弱い平流電氣を用ゐる、書字痙攣に最よいのは、時々筆を取りかへる事と、時々は字をかくのをやめて休ませるので、金屬で出來た「ペン」軸は一番惡いさうだ「また裁縫だの、「ミシン」に從事する婦人たちは常に前に屈曲んだ姿勢や、坐位をとつてゐるから、屢ば下腹及足の靜脈に血がたまり、血液の循環が惡くなつてくる、從つて痔だの心臟肝臟の病にかゝるものが少なくない、又職業によると身体の一方を、他方より餘計に動かせるから、其方へ身体が屈がる樣になる、この樣な職業にある婦人達は時々新鮮の空氣の中で運動をして、他方の筋肉をも強くしてをかなければならない。

（以下次號）



家庭看護法（前號の續）

醫學博士　三宅　秀君

賣藥のことを申しました序でに昔から今日までの成りゆきが、大いに遷變つて居りますから漢法の行はれて居りました時分のことを少し申して置かうと思ふのであります、

今日では漢法は少なくなりましたけれども、日本は從來漢法の行はれた國であるから賣藥の中には多く支那流儀の藥があります尤も、其支那流儀の藥ならば皆何れも効の無いものであるかと云へば決して皆捨てゝ仕舞ふことも出來ないと私は考へて居ります、其故は昔からして西洋流の開けて居りませぬ前は其漢法の藥のおかげで數多の病人が癒つて居つたのでありますから、歷史上からも立てゝ置いた方が

宜からうと思ふ、漢法には妙なことを申したもので、一品の藥を草昧に用ゐて利くこともあるけれども、多くはさう云ふことでなくて數品の藥を澤山に配合させて服ませた方が大に効能があるものと斯う云ふ考を致して居りました、而も古人の組立てゝ置きました所の法は濫りに今日の人が崩すことは出來ないものである、としてある前申した一家相傳のやうな藥ならば其方組みを改めず其儘に保存して居て、從前の方組が出來て居るのに手を付けず其方組通り他の藥品を拔き差して改良進歩などゝ云ふことは少しもせずに用ゐ來つて、古い方組の方が宜しい、崩してはならぬと、斯う云ふ工合に古い藥方を貴んで居つた、それからもう一つは古い藥を貴んで居へたばかりでなく、分量が少なくては或は毒にならぬやうなものでも組み合せ方の工合には十分藥の効能があるものだと云ふことを古から習慣で教込んで居ります、それであるからして藥を賣る人もさう云ふ廣告を致します、買つて服む人も信用が半分で、俗に謂ふ鰯の頭も信心からとか云ふことゝ同じことで、藥の効能よりは信用と云ふものを買つてしまふから病氣より精神の方が先きに癒つてしまふ、病氣其者が癒らない中に心の方が癒つてしまふから、餘り激しい毒藥を用ゐませぬでも、十分此藥は効能のあるものと信じて服むから病氣が癒つてしまふと云ふやうなことがあります、實際是れはあることです、さうしますると古人のしたことは人を僞瞞様な手段を用ゐて病氣を癒したやうに見えますが決してさう云ふ謂れのものではない、何でも彼でも病氣が癒れば宜いのでありますからして、苦しんで居る病人が信用して斯う云ふ藥を服むと言へば是も結構である、吾々の衞生の方の側から言ひますと云ふと、人の身躰へ毒なものを入れると云ふことは成るべくしないで、水か何か飲ませて置いて病氣が治まるならば其手段が一番上策である病人の信用を先に買つて毒にならぬ害にならぬものを服ませて病氣が癒るならばさう云ふ方法が最も好からうと思ひます、

其點から行ますと云ふと今日世間に（寧ろ女子の方に）信用を得て居りまする所の實母散でありますとか、或は清婦湯でありますとか云ふ婦人方に利きます藥は、矢張り前申した通り劇毒藥と云ふやうな危險なものでなくて、信用して服んで行かれますからして清婦湯も實母散も利きます、決して利かないではありませぬ、私は此點に行きますと云ふと多くの昔からやり來つて居る漢法流儀を貴んで居ります、今日では西洋流の方が術が下手になつたと言はなければならぬ、激しい藥を持つて往つて人間の身体に直に貼ると云ふやうなことをして病氣を癒さうと云ふのは、餘程伎倆が下つたと言はなければならぬ、成るべく精神療治をして、藥はどんな詰らぬものを用ゐても病氣が癒るやうな工風をしなければ本統に醫術が進歩したとは言はれないのであります、

又賣藥の中には彼の世間に普く廣まつて居ります所の寶丹でありますとか、或は奇應丸でありますとか紫錦錠でありますとか、一角丸でありますとか云ふやうなものは内國の極くまだ開けない所の國々にまで行渡つて居ります、是等のものは信用で服みますからして、一には効能もありまするし又他に良い藥を得ることが出來ないで、或は醫者を頼んで來ることが出來ないやうな場合には全く藥の無いよりは勝ることがありますから、此等は素と漢法流儀から來て居るのではありますけれども強ち皆棄てゝしまふことは出來まいと思ふ、其可笑しなことを申すと、西洋にも今日吾々のやつて居りまする醫術の外にも一つ別に療治の方法があります、丁度今日の漢法家の法と同じやうな療治をして居ります、其方の醫術にも別に學校があつて生徒は其學派を學むで居ります、又病院もあるのであります、西洋の極めて文明なる所にさう云ふ學派が立派に行はれて居る所を見ると人の信用次第のものでありますから、全く漢法を斥けて仕舞ふ譯のものでなからうと思ふ、

藥と云ふものは色々使ひ方もありますが、一人の病人に就て一品の藥を用ゐることもあり、又病人一人

に就て幾通りも用ゐなければならぬ場合があります、主なる病氣に向つて與へられる所の藥は主藥と申しまして主になる所の藥てあります、からして、是は怠ることの出來ないもので毎日絶へ間なく用ゐて居らなければならない方の藥てあります、それから主藥と云ふもの丶間に合間々々に用ゐます所の藥、之を兼用と言ひます、此兼用の藥は成るたけ品數を餘計にしない方が宜しいので、一の病氣に對しては一品の藥を用ゐて往く方が當然なのてあります、けれども止むを得ない場合には此兼用と云ふて附加へた所の藥を用ゐなければならぬ場合があります、成るたけそれは少ない方が宜しい、若し入用もないのに二通りも三通りも藥を病人に服ませると第一病人にとつてもうるさい、迷惑である、只一の藥を極めてあつて時間々々に正しく服ませるさへ可なり煩わしい又看病人の方ては怠りなく服ませると云ふことも随分面倒なものてありまするのに、倘ほ其外に幾通りも〳〵兼用があると實に病人は迷惑な次第てあります、私は頃日御懇意にして居りまする或貴顯の方が此間中病氣てお居てゞしたから醫者の資格てなくお訪ね致しました、其時に貴顯の方の言はれるには「私は平日健康てあつたから少しも病人の味と云ふものは知らなんだ、今度病氣した所が、病氣の苦しいよりか藥責にしられたる、其間は看病婦が來て熱を計るとか食物を勸めるとか云ふやうなことで息む暇がない、看病と藥のために責められて人と云ふものは至つて忙がしいものである」と云ふ病苦情を聞いて參りましたが、總て看病をする時分には病人に可成充分休息の出來るやうに困らせないやうにするが看病の本意てあります、万止むを得なければさう云ふ面倒なこともしまするけれども、成るたけ簡便な方法を執つてさうして病人の身体に休息の出來るやうにするのが本主意てあります、然るに世の中には善人ばかりはございませぬからして、随分惡い考を起す者もありまして、澤山な藥を賣付けて、主藥のみて宜い所へ二三種の藥を賣付けて

病人を困らせる斗りでなく他人の財貨を掠取らうと云ふやうな惡い手段をする人も隨分世間に無いとは申されませぬ、斯う云ふことは德義上大に戒むべきことでございます

看病を爲さる方は成るたけ病人が困らせないやうに、病人が安樂であるやうに、醫師に向つて成るたけ藥の數を少なくして貰はないと病人が迷惑をしますから、側に付いて居る人が醫師に向つて注意を與へても宜からうと思ふ、何故かとなれば醫師も段々療治して居る中に習慣になつて來ますから、病人一人に一つも二づも三つも藥數をやらなければならぬ癖が付いて居りますから、さう云ふ癖もあらうと思われる時分には側に付いて居る看病人が注意する方が宜しい、

それから序でヾありますから申して置きますが、醫師の家からして藥を直に病家に渡す風習になつて居ります、若し是が醫師の家から藥を渡しませぬて、醫師は何時でも處方書と云ふものを授けてさうして藥劑師の手から藥を買うことになると即ち醫師と藥業と二つ別れになりまして、彼の新聞などで論して居ります所の醫藥分業と云ふことになるのでございます、此醫藥業の分業と云ふ事柄は西洋には成立つて居りますけれども、それを日本へ持つて來て急に行ひましたならば都合の善いことではなからうと思ふのであります、醫藥分業と云ふことは隨分爲し難いものであつて適當なことではなからうと思ふ、何故醫藥分業が行はれ難いかと云ふと、醫師の方に於ては診察料を拂ひ、それから藥劑師の所へ往つて藥を取つて其料を拂ふ、さう云ふ風に二ヶ所に亘つては甚だ煩はしいことである、醫師の家で直ぐ藥を貰へるなら至極簡便である、それを二ヶ所に亘つては報酬を出すにも二人の者へ對して報酬を出さなければならぬのでありますから、假令聊かのものでありましても報酬が今日より嵩む道理がありますから、中以上の資產のあります者は醫藥分業をしましても格別痛痒を感じないかも知れませぬけれども、中以

下に於ては醫師の手から藥は一切出さぬとなつたら二樣の報酬を出さなければならぬから餘程困るだらうと思ふ、それてあるから藥の御話を致すに就て序ながら申すのてあります

（以下次號）

抄録

冷水浴の季節

冷水浴のことは本誌に度々掲載致しましたから定めて最早耳にタコの嫌ひなきにあらざるも名家の說も澤山參考される方よろしからんと玆に瀨川醫學博士の說を借りて尙皆樣方の參考に供せんとす

▲皮膚の健康　冷水浴と云ふは冷水を全身に浴びるのだが冷水摩擦の事も世人一般に冷水浴と云ふようだ、此にお斷しするのは冷水摩擦の方てす全身に水を浴ると云ふ事は初めての者には考へものだから之れは强てお勸め申さない、今や氣候も追々と冷氣に赴く故海水浴場や溫泉場へ遊びに往つた人も歸つて來るだらう、此際此れ等の人に向つて特に御勸告したいのは冷水摩擦です、之れ迄海水なり溫泉なりにて皮膚を健康にし營養、神經其他の諸機能が盛んてあつたのに歸つてからは其儘安閑として皮膚の攝生を怠つたら、健康になつた皮膚が又不健康な感冒やすい皮膚となつて仕舞ふ元來日本人の海水を浴するものは少し海水が冷たいと氣味を惡く思つて浴びないが、西洋ては溫度の低い海水を浴びる故初秋の候になつても、海水浴場は日本のように俄に寂寞を感じない、尤も斯る場合に長時間浴びて居るのは宜しくないがされはとて日本人の如く熱い時ばかり浴びて冷たき海水を浴びぬのは不贊成だ、詰り夏より引續いて秋の涼々した海水を浴びるのも皮膚の健康上必用の事と思ふ

▲適當な季節　海水浴場や溫泉場から歸つた者に計り冷水摩擦を御勸めするのではない、冬になつて感冒やすい人は勿論、身体健全なものにも一般に厲行あるよう御注意いたすのてす、殊に今は冷水摩擦

を實行するに最も適當な季節で今日の季節から實行しないと冬に入つてからナカ〳〵行れるものでない、又行り出したならば毎朝必ず缺かさずに勉めて實行するよう氣分の惡い時押して無理に行るのは却つて身体に障るから之れは止める樣になさい爾うして氣分が恢復したら又怠らず行るようにすると冷水摩擦の特効は自然に現はれ外の病に冐されるやうな事も尠なく外害に對する抵抗力も大に增して精神爽快を覺えます

▲浴後の冷水浴　日本人は西洋人と違つて熱い溫度の湯へ入浴るのは平氣で拙えるが冷水には極く弱い、尤も熱い湯はリヨーマチスには特効があるが其他健康上には至つて宜しくない然るに熱い湯へ入浴つたものが風邪を冐かぬ爲めだと云つて浴室で直ぐ冷水を浴びる、理屈から言へば今迄熱い湯へ入浴つた皮膚が俄に冷水の爲め溫度を奪はれるだから寒暖の度に激しき變化を起し至つて宜しくないようだが併し實際は左程害もないが又効もない、斯んな方法をするよりは冷水摩擦を行つて風邪に冐されぬ樣にする方が遙か優つて居るではないか次に冷水摩擦の方法をお咄しよう

▲毎朝一回　冷水摩擦を奬勵すると同時に其方法をお噺し仕ましよう、唯無暗に行つた所で其方法が惡いと却つて健康を害ひます、日本の家屋として中流以下の家には浴室の在るものは至つて稀なる故冬の寒い時など冷水摩擦を行る塲合には浴室のない家では第一塲所に差支へるけれど塲所の無い位で實行を怠るやうな薄弱な精神では迚も冷水摩擦を行り遂げる事は出來ません、先づ浴室の無い家では臺所でも、板間でも成可く閉切つて冷たい空氣の吹きとほさぬやうにして行るが宜らう、慣れた以上は椽へ出て行つても風の吹き通す所でも宜いが、初めて實行する者が夏からかけて冬の寒さには此邊の注意は尤も大切であります、時間は何時が宜いかと云ふ御質問も數々ありますが朝床を放れて嗽ふ際同時に冷水摩擦を行るのが一番宜しいと思ひます、夏は別問題と

して冬は一日毎朝一回を程度とすべく行り初め一日に二回も三回も行るのは餘り宜しくない

又冷水摩擦を行るには朝寢は禁物だ、詰り朝は早く起きて冷水摩擦を行り、牛乳を飲んで三十分間も散歩して歸つて來たら二三十分間も少憩いて夫れから朝飯を食すれば飯も旨く喰られるし精神も非常に爽快になり此上もなき養生になります

▲婦人も子供も　生來身躰の虛弱な者は醫師の診斷を待つて後に決行するが宜らう貧血性の者などが躰質の冷水摩擦に抵抗する力のないのに押して行るのは却つて身躰の害となります、男子に限らず御婦人方にも小學校時代の子供には此冷水摩擦はお勸め申します、子供などには母親なり下婢なりが手早く行るように側て手傳つて遣るが宜らう(をはり)

●歯の話

T. K.

歯は食物をこなす門戸でありますから尤も大切な處てありますが兎角若いお方などは歯の自慢をされて固いものをむりに碎くなどゝいふ人もありますが是れは大變歯を惡るくする元とて歯が惡くなりますと食物のこなれがわるくなりまして夫れが爲めに胃病などは忽ちに起るようになります一躰日本の人は外の部分に比べて見ますと歯は粗末にする者が多い是れは所謂先祖より粗末にするくせが人々にしみ込みて居るからで歯を麁末にする習慣は悉く取り除かなければなりませぬ

●歯の病ひは開化の人に多し　人間の歯は體の內て一番堅い强いもので中々骨や其他のかたき部より餘程丈夫で一寸と考へると中々損じたり腐れたりするような物ではなく又舌や鼻は餘程柔らかくて損じ易すそうに思はれますが舌がくさり鼻が落ると云ふ事はめつたにありません唯惡る病を引き受けたときには鼻に損所が出來る位な事にて誠に稀な事なるに、其硬い丈夫な歯がくされ或は損じまするは實に多くあります、是は歯には回復機能と申す働がすくないゆへ、少しにても腐り掛れば段々に多く腐る性

質のものであります、又齒の病は何人に多いかと申すと、開化した人種に多い言ひかゆれば上等のお方に免れ難い不幸てす、しかし免れ難い病なら仕方がないとお斷念には及びませぬ、御注意次第て隨分豫防する事が出來ます、夫ゆゑ養生が第一と存ます、其養生法に就て世間の人々に大なる考へ違ひがあります。

●子供の齒　先づ子供衆の齒の發生の事から初めましよう、小兒の生れまして凡そ六七ケ月より順々に月を追ふて生へますが、其初は下の前齒より生へて夫から上の前齒と云ふように次第に發生して、三十六ケ月間には小兒の乳呑齒が揃います、此發生期の間にはよく腦病を起して、引付たり腸胃に申分が出來て下痢したり致します、能く氣をお付けなさらなければなりません、且つ難生齒の爲めには度々小兒の命を落す事がありますゆへ、小兒の齒の發生する頃は大切なるものと思召すがよろしい。而して其數は上に拾枚下に拾枚合して、二拾枚のものです、之を乳齒と稱へます、此二拾枚の乳呑齒は小兒にとりては大層大切のものです、しかるに日本の親達は何とも思はぬ人が多くて、ナニ……小兒の齒だ今にもよい齒と替る……と少しも注意しない況して、之を保護してくさらぬ用心抔には一向頓着せぬ人があります、是が即はち齒の養生の誤りの第一ケ條です。

●乳呑齒　此乳呑齒はなぜ大切なと申せば小兒が六七歳になります頃まて、食物を咀嚼して消化の助けをなす緊要の者てす、殊に小兒は大人より胃腑も弱いから能く此乳呑齒は保護して置かねと、不消化の食物を「なま呑み」にしますするから腸胃の病に罹り易くなります腸胃がわるくなる處より種々な小兒病を引起す事は常に多くあります、其時は親さん達ちも夫れ醫者夫れ藥よと色々に心配せねばなりません、其心配のない内に少し位は面倒ても、氣を付る方が餘程益てあります、是は親たる者の義務です、唯子が可愛とて菓子計り與へるのが子を愛すると謂

ふ者てはありません。

●味噌齒　今其養生法を申せば先づ乳をのまします頃より、小供の口内を淸潔にしておくが一番で淸浄な布切れを指先きに捲き付けて淸水にひたし、乳を吞みたる後や夜分寐る前には口の中と齒の內外面を奇麗にふき取る事を忘れてはなりません、小兒の口內は兎角不潔になり安い、もし乳の分子が口の中に殘りて居ますと乳酸と申す一種の酸が出來ます此物が齒の土質分を溶解してくさり初めます、もし一本の齒が腐り初めますと次へ／＼と段々傳染して終には一本も殘らず皆な腐ります、之を日本にては味噌齒と申して小兒の齒は斯くなるものゝように思ふ人もあります、しかし是も注意次第で防ぐ事が出來ます其證據には外國の子供には此味噌齒がありません、皆次に生へる齒と替るまで奇麗に揃ふて居りますどうか日本の子供の乳齒も健全に揃ふて齒替りまで無事で置きたい者です、子供の健康にとりては齒ほど大切な者はありません、此齒が腐ると可愛そうに痛くて難儀をします、又た食物を嚙むにも齒が痛いから能く嚙まずて飲み込みます、之を俗に鵜吞と申し升、此が身體を後來わるくする一ツの原因となります能々御注意ありて淸潔法をお施しなさい、子供の時から食物をよく咀嚼するの習慣は一生の內にはどの位利益があるか知れません。

●よく嚙むは長壽の元　獨逸の天子第一世「ウヰリヤム」陛下の長壽をされましたのは、母公か食物をよく嚙む事を敎へ玉ひ、パン杯を新聞雜誌の間に挾み置き一ツの食物より次きの食物に移るまでに字や繪をながめ、其間に能く咀嚼するの習慣となされました故で有ますそれで此帝も晩年に御自分の長壽は全く母公の賜なりと仰せられました、其外英國の女皇「ビクトリヤ」陛下の保嬰の道を盡されしなど、皆文明の邦國にては家庭の發育法がよく行屆いて、萬民の君たる人までも善く衛生に注意し玉ふは、誠に感佩の事と存じます、どうか日本も只表向きの眞似ばかりでなく、眞に其精神を學んで敎育ある貴

婦人の方々より、家庭養育の法を改めて、唯乳母や下女ばかりに打ち任して置くような、悪風を止めたい事と考へます。

●刷毛を使ふことと　最早や小兒が五六歳となりましたら、朝夕小さき刷子を使ふことにならし口中を清潔にする事と敎へますがよろしい、如何に小供でも物心の付いた上は清潔にするは不潔なよりは心地がよいものですから、段々好んで遂に習慣となり、成長の後も自然口中の不潔を嫌ふ第二の天性となります、此習慣が一生の歯には餘程歯の健全を助け、衞生上の利益があります。

●歯の替る時　子供の歯替りの時期は隨分大切なもので、本邦にては昔から子供の歯替りに無頓着でした、夫故不規則に歯の重なり合ふて居る方が澤山あります、全體此の亂杭歯なるものは衞生上甚だよくありません、何故なれば重り合ふたる歯は、成人の後其歯が弱くそして腐り易く拔け易いゆへ、一生の内衞生上甚だ損害を受けます、先づ歯の替る年月を一寸申しましよう、抑も子供の歯の替る時を齠齔期と云まして、六七歳から始まるもので、先づ一番に下顎の奥に大きな奥歯が生ます之れを六歳臼歯と名付ます元より子供の健康と不健康とに因ては早い遅いが有り升が、大概滿六歳には此奥歯が生へます、此の歯と同じ頃に下の前歯が替ります、夫から上の前歯と次第に替りて大抵六七歳より十二三歳の頃迄に順々に替ります、尤も智歯俗に「親知らず歯」と申すは十八九歳になりませんと生へませぬ。

●永久歯　凡て此永久歯の發生は、乳呑歯ほど困難はありませぬが、併し其生へ出る位置によく氣を付けねば、前に申す亂杭の樣に重り合ふた歯になります其時は顔の貌を惡くいたし升計りでなく、一生の間大層衞生上の損になります夫故米國の通り六七歳より十四五歳までの間は時々歯科醫に撿査をお頼みなさるがよいと存ます、又重り合ふた歯を拔き取る時にも、或は乳呑歯と成歯と取違へて拔く事がありますゆゑ、無學無術の者には任されません此間

違ひと申すも、乳齒は齒並よく列んで次に生へます、永久齒は必ず內側などに重りて出ます事がありますから、一寸素人考で反て本當の成齒を拔く事がありります是は決して惡口ではなく實際是迄度々見聞いたした事があります。

●乳呑齒の拔き方　乳齒を拔くにも必ず拔くべき歲月の定期のあるもので、何時拔いてもよいと云ふ譯にはまいりません、餘り早く拔きますと齒の發生を遲くし、其上顎骨の發育を妨げ顎の形狀を醜くいたします、又餘り永く拔かずに置きますと成長してから齒並が惡くなります、齒並の惡いのは、容貌を惡くし又齒の重り合ふた部が腐ります、是は齒の間が不潔になり、色々の食物杯が留まり、酸化して齒の石灰分を溶化するゆへてあります、そして一の齒か腐敗しますと隣りの齒に傳染いたします。

●腐蝕の原因　六ケ敷き病理の話になりますが、簡單に其一二を申しませば、全躰齒は石灰分より成立ちて酸類とは極て中のわるき者にて、若し酸の中に拔けたる齒を浸して置きますると、段々とけ柔らかくして、仕舞ます、夫故若し齒が重りて居りますと其間に食物の屑が止まりて終に酸化して齒を溶かし、始めます此が腐る第一の原因となります、唯腐ると申せば直に全齒を失ふ樣に聞へますが、抑も齒の腐る初は肉眼にては、見る事の出來ない位の、針にて突きたるかと思ふばかりの細孔が幾個ともなく出來て、漸次に其小孔が大きくなりて、穴とも云ふほどになり口の中の粘液や食屑が其穴に留り易くなり、酸の製造所を口の中に設けたると同じく、段々其穴を大きくして胡麻粒位の穴になりますと、間もなく小豆の這入る穴位に大きくなるのは少しの間です。

●齒の保護　齒は中央までくさり神經に及ぼさねば疼痛が起りませんから世間の人は痛みの無い內はお氣が附きません、是が甚だ嘆かわしき事にて少し位の腐れは療治もし易く、療治した後も永く丈夫に保存が出來ます、然るに兎角痛みの無い內齒科醫に

檢査などを托する、人は少ないと思います、外國の人々は痛の有無に拘はらず、大概六ケ月毎に檢査させます、此法は實に一生の内衛生上最も利益があります、兎角お若い内には歯の一本や二本位は心に掛けぬ人が多くありますが、次から次へと歯の無くなるほど心細い事はありません、保護する時を遲くれ、老年に至りし上は一本に千兩出しても天然の歯の樣にまいりませぬ、其時には始めて若い時より養生に注意すればよかつたと御後悔は必定なれ共、最早十日の菊で何の役にも立ちません。

●歯と腸胃の關係　又歯がなくなると腸胃の病を起し、夫より種々の全身の病氣を誘起しまして、終には病氣の問屋となりて、鬱々日を送り此世の快樂を享くる事の出來ないのは、誠に氣の毒な話であります、歯は中々打ち棄て丶置くへきものでありません、只今まで歯の腐る大略を述べましたから、是より此豫防法の事をお話致しましよう。

●豫防法　歯の掃除をよくして、清潔にするのが緊要て、何も別に六ケ敷き事はありません、唯朝夕「ハケ」をよく御使ひなさい、歯刷を使ひ付けぬお方は房楊子の方がよいと、思召ますが夫れは間違で、房楊子の先きは損じ易く其一部が、歯と歯の間に殘る事があります、夫より知らず識らず歯と齦肉とを害します、西洋の歯刷は此害がないのみならず、歯齦を健康にする効能があります。

●使用法　歯の表面、内面、咀嚼面、此三面をよく清潔になして置きますと、歯か腐らぬ上、歯齦か硬く丈夫になります、人に據りて西洋楊子は歯齦が痛い血が出る、肉か減るなど小言かある、是は御尤も千萬な事です、併し夫は平常歯刷を使ふに馴れぬ人か、假に用ますと血も出ます、痛みもしますけれとも其痛むのは齦部が健全でない印ゆへ、先つそろ〱二三週間歯刷を使ふて御覽なさい、漸次に齦肉も硬くなり痛もなく、血も出ないと申すようになつてまいります、凡て人間の體は使ふ部分か丈夫になりますもので、飛脚屋は足か達者になり、鍛冶屋は

手の力が強くなると同じ事でありまする夫故若し一室に閉居して運動も何もせずに居て御覧なさい、身體は總て弱くなりて仕舞ます、口中も其通りにて若し大切にする考へにて當らず障らずに捨置きまする
と、弱くなりて粘膜や齦肉が軟かくなりて少しふくらみ指先きか一寸あたりても血か出てむづ掻いような心地かして参ります、是も養生法を誤るの一ケ條て有ります、實は可成能く歯刷にてこするのかよいので、其刺衝にて齦肉の中抵抗力を起してまいり、硬くなりて歯の根に固着する樣になります、是は衛生上實に大切な事ですから、是迄お使ひなさらぬ、御方は使つて御覧なさい、必ず効能か現はれます、夫から今一つ此「ハケ」を平常お用ひになりて居ます方々の御注意までに申ますか、西洋の「ハケ」を御使用になるにも使ひ樣か惡くては幾度お用ひなされても役に立ちません、能く奥の歯まで届くようになさい夫故大形よりは小形のものかよろしいそして、朝起きた時ばかり御使用なさる人か多いか夜分寢る前にも今一度御用ひなさる方か餘程きゝめかあります、併し餘り効能かありてお歯か健全になりますと、世間の歯醫者か‥‥‥困るかも知れません。

●歯の腐るは夜中　全體歯の腐れたり惡くなるのは、晝間より却て夜中に多くわるくなります、何故なれは口内及歯の間に種々な汚物か挾まりても、晝の内は物を言ふには舌か働き、笑たり、欠伸する時は、唇か働き、始終筋肉の運動を絶ちませんから、縱ひ少し位の食屑か歯間に止まりても、自然と脱除する事かあります、然るに夜分は此諸筋の運動か全く止みますから、粘液や食物の食屑か歯間に狹まりたる儘翌朝まで、留まり、酸化して歯を害します。

●西洋歯刷　之を御使用になるのには、兼て歯磨粉の御注意かありまする決して粗製の歯磨粉をお用ひなされてはなりませぬ、夫は粉の性質か粗造なれば歯の上皮なる大切の琺瑯質を減らします、是は中々緊要の事にて一寸考へますと左迄の害は無いようて

すが、此琺瑯質と申す歯の上皮の堅いものがなくなりますと、歯は容易に薄くなりてまいります、故可成丈け歯磨粉は御撰みなすつて口の中で溶けてしまうような粉でなければよくありません。

●食後に小楊子　是れは至極よい事で、歯間にある食屑を取り除きて、清潔にするゆへ、頗る功能があります、併し此楊枝も餘り太く大きな小やうじや金類の如き堅過ぎる小楊子は却つて害があります金銀にて製したる、小楊子を使へば歯の頸部を段々減らして惡くいたします、或は歯の位置を變じますゆへ可成軟かくして、丈夫な質の物がよろしい、特に鳥の羽莖を切りて製したるものが一番よろしい、又食事をしました後に、含嗽をなさるのも至極よろしい、併し餘り養生々々と申しても平日薬にてお洗ひなさるには及びません、微温湯が一番よろしい、是丈けは實行して毎日お守なさると歯醫者に御用が少ないように成ます。

●歯の療治　世間の人歯の療治と云へば金銀にて歯を粧飾するものと思ふ人がありますが實に困り入ます殊に平生人の、病氣をなほす醫者の内にも歯醫者は人の歯を金銀にする者抔思ひ違ふて歯醫者の眞面目を御承知ないには驚きます、先づ歯科の眞面目と申ますは、人の歯の天然自然のものを可成丈保存するが第一にて決して金銀を以て粧飾すべき者でない事は勿論の事にて、米國の歯科術は世界第一等の進歩と申ますが、其米國の教育ある婦人どもは、可成前に金歯の光りをあらはすは甚だ嫌ひます。夫故歯が損しても、歯と同じ色のものにて直すのを好みます。奥歯の方は歯の性質と腐れの多少によりて、銀なり金なりを撰みます、強ち銀より金が丈夫とばかりは謂へません、其の歯の性質と病症とによります。

●日本人は米人と反對　日本の人は反對にて、人の目に付く所は可成金にて塡め、大事の奥歯はとんと直しもせず構はない方が多くあります、又歯と歯の透き間がある部分に、金や銀を充めて居る人があ

ります、是は衛生上甚だ危害の恐があります、夫故治療の事を心得たる者は決して致しません、凡て歯と歯の間は少し位すいて居りますのが其歯を腐さらせぬ助けとなります、餘り歯の密接して居るものは、洋紙一枚の厚さ位すかす術を施す位のものです、夫故若し二本の接した部が腐る時は、一本宛別々に充めて其の間を少しすかして充めるのが法則です、左なきときは小楊子が通らず掃除が行屆かず、反て腐る憂があります、米國にては若し他人の健康を害する所業を爲す者があれば、直に罰せられます、加之人民も能く醫者を撰ぶとを強めます、誠に緊要の事であります。

●米國にも山師あり　併し米國のように開けた國ても随分山師などがありて、「ダイヤモンド」や寶石を以て歯を製すると言へば稀には頼む人のあると申すが、是は歯の養生法を誤解して居るからです、先頃も或る歯科の機械を賣る商人の内へ、米國から「ダイヤモンドセメント」と申す粉がまいりました、此粉は元來歯の腐孔に充めますもので、夫れが参ると直に賣切れました、何故だろうと聞て見ますと、此粉の名を「ダイヤモンド、セメント」と申ますから結構な「ダイヤモンド」の粉を入れた「セメント」と誤解して諸方で遣つたと云ふ話があります、しかし此粉を使用しても、一切「ダイヤモンド」の光りも何もない、是は不思議と後に學識のある人に聞たら、夫は唯其粉の名だと分りました、此位の間違は他人の健康をば餘り害しませぬけれど、治療上衛生上害ある事はよく注意なさるが緊要です。

●役者と金歯　先刻も申升金歯の事に付き米國の役者と日本の役者の考へ方が違つて居ります、米國にては人の大勢集まりまする場所で演舌でもする人か、或は役者抔は決して前の歯に金などピカ／＼させませぬ、如何となれば大勢人の集まりたる場所にて、金歯程目に付くものはなく、第一其容貌を凄く怖く致し、第二に芝居などにて笑ふ情態を寫そうとしても、夜中など「洋燈」や電氣燈の光線と、金の

光りとが映じて横から見ると其顔が全く怒て居るように見へ、自分の移そうと思ふ姿に反對の容を顯はします、斯樣な事までにも中々能く心を附ますには感心致します、日本の藝人社會の有樣は役者藝者などの中には、完全無缺の齒でも、殊更前齒を金にてピカ〳〵するために、自然の客姿を害する事には、一切氣が附きませぬ。

●無學文盲の金看板　右の如き愚な考へは見出しの如き看板と申しても宜しひ、斯條に申ても、又た素より齒によりては金にて直す齒もありますは勿論なれば、一般世間に考へて居るようなものではない、又齒醫者の方も實は齒を直す時、其人の容貌を損害せぬよう、皮膚の色から眼髮の色合までよく注意して、其人に適當して容姿を損せぬ樣にするが、本當の齒醫者にて唯人の齒を金色にして喜ぶのは、亞米利加などにて「チンカー」と申して飾屋の仕事です、又口中專門と申しますと誠に區域が狹いように聞へますが、齒醫者のする業も中々澤山にて、皆樣が通常御存の外にも齒並の惡いのを直し、齒を植へ替へ、根ばかり殘りて居る齒を天然の齒のように繼ぎ、上顎に穴がありて鼻に聲音の漏るのを療治します、其外種々の術がありまして中々一寸數へ盡されぬ程あります。

（未完）



質疑欄

●質問注意　質問中診察せざれば應答し難きものは一切解答せず又答解に遲速あるは登載順に都合ある爲めと御承知を乞ふ●質問は端書にても封書にてもよろしけれと單に質問のみをわかりよく認むる事●質問に性名を出すことを好まさる方は匿名にても差支なし●本號の雜誌に登載する文は凡前月十五日迄に申込まれしものとす

質問者　岐阜　一　會員

問一、脳病にはゴム製水枕を用ゐ幾分か効有之や

二、酒は百毒の長なれとも尙青色硝子瓶にて煮

沸飲用すれば害甚しきや無色なれば害なきや

三、鰻と梅干或は金米糖とは同時に食すれば害ありや

四、子宮病全治其後月經進み或は全く患部治せさる證なりや更に患部に痛み等を生ぜず只々月經早まり候のみに有之候診察の上ならでは御分り不申候や

五、便所の臭氣を防ぐにも倘虫類を殺すことを得る藥品なきや

答解　本會審事員

一、答　水枕を用ゐることは効能有之候へども水枕の温まりたるときは之を取り代へることは勿論よく注意して濕氣なき樣にして用ゐらるべし

二、酒を煮沸するに青色瓶にても白色瓶にても別段差支なし青色瓶は其內容透明して居りませぬから如何なる腐液敗が殘り居るかがよく分りません勿論白色瓶にて煮沸するのが安全です

三、鰻も不消化梅干も亦不消化物です今は醫學上別段鰻と梅干は食ひ合せの害があると定まりませんが何れも不消化物のことですから胃腸などの惡しき場合に食べますと變化を來すことがありまして其れが爲め吐瀉を起すことがあるのです金米糖は別段差支ありません

四、子宮病全治後只月經早まるとの御事なれども月經の如何に早まるのや詳しき月經時日の統計でもなければ分りません兎に角今一應診察を受けられて安心されたきものなり

五、世間に賣り居る臭氣止めはアルボース、片腦油等澤山あります石炭酸昇汞生石灰等皆蟲類を殺すことが出來ます

質問者　南海　一會員

問　私は本年春結婚後一月許りしましてから突然日々數度の痙攣を起します醫師の言ふには「ヒステリー」より來る痙攣と云ふ事ですが是は養生次第で根治することが出來るでしやうか又痙攣は子孫に迄遺傳するでしせうか但し私の生母

も若年の頃痙攣を病みなしたが是れは子宮の方より來たので今は全快致して治ります是れも遺傳性のものでありますか委しく御教示を願ひます

答 御申越しの病ひは發生次第で根治することが出來ます

又遺傳に就ての御問ひですが此痙攣は子孫に遺傳する方が多い殊に御母君の若き頃痙攣を起されたとすれば貴婦にも多分遺傳されたのかも知れませぬ

質問者 新潟 會員 某

問 私事本年廿六歳幼なき時白雲をわずらい全治致し年長に從ひ頭一面殊に毛の生ひぎはにふけの如きもの澤山出來かきとるときはボロ〳〵はげ且其れか爲毛が生へませんようになりました專門の御方より治療の良法毛の生ひる良藥御教示被下度願上候

答 皮膚病の爲めに起りたるものと見えますから診察を受けて專門の方から藥をもらわれたしたいしてむづかしい病氣とも見えませぬから御地の病院長醫學士以上の人に見て御もらいなさい打ち棄てゝ置きますといつ迄もなほらずます〳〵はびこりますから早く其手當をなさい東京には名醫が澤山ありますが御手紙では病狀かよくわかりませぬから明らかなことは申し上げられません

本所 一會員 荒井某

私は五六年以前よりアゴの邊にブツ〳〵した赤く小さき御できが出來まして夫れか痒ゆくうるさくてたまりません廣島地方に居りましたときも名古屋地方に居りましたときも又東京へ參りましても本所の或御醫者にかゝりましたがどうしても癒りません迚もこれは癒らぬものかと思ひました夫れに「アゴ」の邊ばかりでなく果ては眼の縁にも出來るやうになりまして實に困りました偶々御會の御注意によりまして東京帝國大學の土肥博士に診察を願ひまして先生の御指圖通り一切患部を洗らわ

ず又しやぼんをつかわず毎日其敎に從ひ屢々治療を願ひましたところがさしもの痼疾でしたものが此頃では「サッパリ」と癒りました是れ全く本會よりの御注意と土肥博士治療の宜しきことゝ深く喜びのあまり貴重の誌上を拜借して此事を御吹聽申すになん

問　質問者　岐阜　會員　某

私は平常硼砂を五十倍の水に溶解せし物を化粧水として用ゐ居候が上等の石鹼を使用しても別に皮膚に影響を及ぼす樣な事は御座なく候や

答　別段皮膚に影響はありますまいが併しいろ〳〵よき品を硼酸などに合せたものがよいてしやう

問　質問者　新潟市　一　會　員

一靑年胃病を煩へ醫療によりて快方に至るもまだ身躰衰弱して困難なるを强壯に顏色靑きを直し且つ每年季節に至り再發することなきや否平素の食物は如何なるものを取りて害なきや詳細に御報導被下度候

答　快方に至りたる御樣子ですが素人の申さるゝ快方は餘りあてにはなりませぬからよく醫者に御相談なさいまし併し眞に快方になりたる者とすれば顏色の靑いや衰弱なども滋養食を用ゐて發生すれば追々になほる食物は玉子、牛乳、豆のソップ、ソップ、豆腐等を用ゐらるべし但玉子は生より半熟の方よろしく粥も極く柔らかきを佳とす若し堅き粥なれば寧しろたき立ての飯の方却つてよろし

問　質問者　關西　一　會　員

私事七八年前に急性肺炎と申す病氣をいたし二ケ月位かゝりて全治一昨年頃より少しの寒さにも感冒にかゝり安く其時には發熱し二三日て元の如くなり又常に右の胸中が何となくせまき氣持し大呼吸するときには時として痛みを感じ依て不安心に付近頃或る縣立病院にて內科博士の診察を受けし處格別に差したることもなきとて沃度加里と沃度鐵舍利別との水藥と炭酸グヤコールと乳糖との散藥を常に服する樣に申され

只今は服藥中ですが何か異狀のある譯でしやうか何と申す病名ですか一度は呼吸も兩方一樣になるものでしやうか只今は朝起きて直に深呼吸及び冷水摩擦など怠りなくして居りますが宜しきや毎日一里外の學校へ通勤するものですが差支なきものにや

答　御申越の模樣では異狀のあるからです病名の事はおかゝりになりました内科の博士に聞れたし明言はチト出來かねます藥の模樣で病氣を案じますと呼吸が兩方一樣になるかも知れませんから藥を續けて飮んで居なければなりませぬ。朝起きて直ぐに深呼吸冷水摩擦などされるはよろしいが是れとても若し熱があつたり氣分の惡るい時には御扣へになる方がよい此等の場合には醫師と御相談になりて御指圖を受らるべし學校への御通勤も病ひの程度によること故に前と同斷の御答へより致し方は御座いませぬ

質問者　牛込　三十二歳頭痛女

問、一妾年來炎天强風雜沓勞働後又三日毎位に頭痛目昏いたし誠に困却仕候療法御敎へ被下度候

答　御申越しの模樣では所謂頭痛もちと察せられますが幸ひ本郷の大學には餘り遠方でもありませぬから内科專門三浦博士なり其他の專門學士によく見て御貰らいになつて姑息療法を止めてよく治療しておもらいになることを御勸告致します

質問者　二十歳空腹女

問　妾幼少より毎曉空腹を感じ身躰棒の如くに相成り倒れそうにて少しにても食せざれば身動きを出來申さず又肩こり毎に目眩み致し候間療法伺上候

答　冷水摩擦深呼吸でも初て御覽なさい効能のあるとがあります是も一度内科の診察を受けられたし

質問者　牛込　會員

問　妾（フスベ）多く是迄種々療法行ひ候も相直らず何故にや最良療法御敎へ下され度候

答　（フスベ）とは所謂「ソバカス」の事と思いますが

是れは中々治療法困難です又藥品とても危險な方法ですから素人方には御答へは出來ませぬ又治療を受けましても必らずうまく行くとは限らぬものが多くあります兎に角皮膚病專門の土肥博士にても御相談なさるのが一番よろしいです

質問者　會員　某

問　私事廿三才幼少より虛弱と申方に御座なく自今も別に病氣等いたさず候へども一兩年前より月經期一週間前頃より下腹に痛みを覺へ氣分も勝れず頭痛等致し期に入りては腹部の痛み非常にて平常兎角さい〳〵いたさず殊に夏季に於て足だるく頭重く等有之候云々

答　右は診察の上ならでは分りませぬ大した事ではない樣ですが東京にては駿河臺の濱田博士なり榊博士又は大學の木下博士に見て御貰ひになり度候

質問者　高崎　一會員

問　昔の人は麁食しても非常に健康の樣でしたが今の人はよき物を食べて居りましても虛弱な人の多いのは如何なる理由に候や

答　昔しは世の中も進歩しませぬから總べての事柄が短簡でありましたから人の神經をつかふといふ事も少なく寧ろ勞働の方が多かつた故に麁食しても澤山に食べてよく運動しますから食物も消化してよく健康を保つたのです只今でも勞働者は學問などする人や神經を使ふ人などに較べて見ると麁食して居つても却つて健康の道理と同じです神經を多く使ふ人は自然運動も不足になり食物も自然こなれませぬから柔らかき肉食を取らねばなりませぬ勿論勞働する人の樣に澤山には食べられません善いものを少し取らねばならぬ樣になります肉のたゝきたる柔らかきものは美味で爽快を感じる許りでなく又神經の力を強めますソップなどは大いした効能はありませぬが病人などに効のあるのは全く神經を興奮させるからです神經を使ふ人は多少神經を強める食品を撰まねばならぬのであり

まづ是れて大概両者の區別が御分りてしやう



研究欄（會員の寄送を望む）

日本橋　田村き代子

●鯛のこぶじめ、幷に、あま酢　わさび

十人前に用ゆるには中位の鯛一枚を使ふ

鯛のこけを取りかしらわたを取りて三枚に卸し皮をひきて（皮を取る事）片身を巾一寸位の大サに縦に切りて夫れを横に小口より長サ一寸巾五分位厚サ一分位に切りてうす鹽をあて酢に十分間位付けこぶも水あらゐをして酢に五分間位付けてこぶを重箱か又は折箱の如き物に適宜の大サに切りて重箱の底にひき其上に魚を壹切づゝならべて其上に又こぶを前の如く切りたるをのせ又其上に魚をのせ又其上にこぶをのせて其上には竹の皮にてものせておもしを置きて一二時間たち用ゐてよし又急ぎの時は少々目かたをおもくして二三十分にて用ゐらるべし大凡目方は煉瓦二ッ位をよしとす冬なれば二三日おもしを置きても差支なし皿に付けるには先の方を一寸まげて五ッ又は七ッ位付けて中にわさびをのせあま酢をかけて出すなり

あま酢の製法は先づ白みりんをよしとす之をにきりと云ひ壹合五勺の物を半分に煮つめ是を酢一合の中に入れて鹽少々入れよくかきまわしてかける又あく引にてみりんのかわりにするもよろし（あく引は單舎を用ふ）

●焼付玉子

玉ねぎ大凡十人前に大なるを三ッ位是を四ッ割にして又たてに小口よりうすく切りて醤油十人前に三勺位玉ねぎの切りたるにかけて鍋に先に入れて十人前には大なる玉子廿位黄白味をよくまぜにだし四合あく引八勺醤油五勺入れてよくかきまわし前に玉ねぎ

の入りし鍋の中に入れて火にかける火かげんは先に七りんに澤山火をこしらへ置き其火を鍋の上にブリツキ板をのせ其上に前の七りんの火を悉くのせて其上に鍋をのせる鍋の底はほとぼりにして鍋の上は澤山の火になしてやく十五分たちたる後おろして大なるかいしやくしにて大きくすくゐて皿に盛り出すなり

●惣ざい物　つみ入いわし　明ケたけ

いわしはかしらとわたを取りてあらゐをしてゆびにてひらき骨を取り皮をむき(何れも手にてする事)皮はかしらの方よりむくまた水あらゐをなし後ふきんにてしぼり水氣を取る大凡いはしのかずは十人前に對し大二十小三四十位此中にあまみそ二十五匁片栗粉六勺是をよくすりまぜてうらごしをして後庖丁にて板の上にてよく是をねりしやもじに水を付けてさいばしにてはさみてにだしの煮立ちたる處へ入れて五分間煮る其中に醤油三勺にだし一升二合位(にだしはかつぶし十匁をけづりて昆布五寸位を一切入れるにだしは水一升二合をよくにたちたる時に昆布を先に入れて又にはちたる時にかつぶしを入れるなり其かつぶしが一度にたち上りたればすぐにおろしてよろし)つみ入は壹人前三ツ位明ケたけを小口よりはすにうすく切りて一寸つゆの中に入れて一寸煮付けて出す

●玉子燒

玉子十前人三十個（目方十二匁位一人前三ツあて）黄白味よくまぜ其中に煮汁三合あく引八勺醤油五勺是を交ぜて燒く三十個の玉子を燒くには鍋の大サは六寸以上一尺以下を用ゆ其中に油を入れ鍋をあつく燒きて其中に玉子を七分通り入れて又七分通り位火の通りし處を二ツに折返して明きたる處へ紙に油のつきたる物にてふきて其方へ先の二ツ折にしたる物を元へ置き前の方あきたれば又油紙にてふき前ののこしたる玉子を皆其處へあけて凡そ火の通りし處へ前の二ツ折を又前に返して燒く出來上りたれば鳥渡さましてよきほどに切りて出す

Kanbara生

●蠣飯の炊き方

蠣飯の仕方は蠣と米を等分位になし先づ常の如く米を洗ひ釜へ仕掛け、蠣は能く洗ひて水をきり（目ざるに入れ置）沸騰したるとき蠣を加へ、炊き上げるなり食するとき充分掻き交ぜるが宜し、すまし汁、藥味等添へて出す、亦た火を引く時醤油少し注ぎて味つけるも妙味あり

中外彙報

●理髪業者の注意

警視廳第三部長栗本庸勝氏は過日府下理髪營業者組合總代重なる同業者八十四名を警視廳會議室に集め理髪衛生に關する一場の告諭を爲せり其要項は左の如しと

一、大學皮膚病院及其他公私立傳染性疾患（肺病癩病、梅毒、トラホーム、禿頭病等）病院の報告に依れば患者の系統は十中の九分迄は理髪店より來るもの丶如し故に此際從來の器械消毒法に多少の斟酌を加へ消毒法を嚴重に取行ふべき事

一、右消毒法を厲行し理髪業者最後の目的を達せしむる爲めに理髪業者組合を組織するの必要を認むるにより當業者は當局者の强制を得ずして自ら進んで設置せられんことを希望す

一、當局者は懲令違犯者を作るを好まず故に一應玆に注意を與へ置き是より進んで吏員を派遣し其取締を嚴重にして違反者を見れば毫も假借するとなかるべし

右終りて池口技師の指揮の下に永島技手は消毒藥、バルガン、ピンセット等の器械を取出し一々實地に就て消毒法を實驗し示したるが部長の談話の終るや深川區理髪業者の一人高橋德藏は進み出て山根前部長が府下の理髪業者を召集し各自組合を組織し衛生的消毒の厲行を期せよとて一場の告諭をせられしに付某等も大に感動する所あり先づ第一着に深川區に於て南北兩組合を設けしも新規營業者等續出し遂に

組合は破滅したり爾後再三組合の組織に盡す所あるも皆有名無實に終りたれば當局者は之を民間に一任せず湯屋組合等の如き強制的に命令せられんことを望む又今日の規定に依れば一定の納税さへすれば何人にても營まれることゝなり頗る不都合なれば十五區内の組合を組織すると同時に衛生顧問なるもの（醫事行政に通ずるもの）を設け組合取締立合の上新規營業者の身體檢査を行ひ適否を定め許可するとされたしと述べて散會せり尙ほ府下に於て理髮店舖を有するもの二千九百〇二人有せざるもの七十八人にして違反處分を受けたるもの二十七人說諭を受けたるもの六百六十七人あり此外女の髮結業の處分を受けたるもの十九人說諭を受けたるもの六百二十七人ありと

●白粉の有鉛無鉛　白粉問題に對する警視廳第三部長栗本勝氏の說に曰く

一、女學生の白粉問題は只外觀上の問題たるに過ぎず從て通學の時を除く外は用ゆるも差支なし

二、衛生上より觀察するも婦女の白粉を用ゆるは敢て差支なし

三、鉛毒は人の想像せる如く甚しきものにはあらず

四、成るべく無鉛毒のものを用ひて淨化粧するは精神衛生上必要の事項なり

五、白粉を用ゆるは間接に身體清潔保持の上に影響して所謂衛生に叶ふものなり

猶ほ氏の語る所に依れば或る筋に於て府下にて製造販賣せる白粉を試驗せしに左記六十六種は多少の鉛分を含み他の二十種は全く鉛分を含まず云々

▲有鉛の分　吉野香、菊童、きく童、玉の鶴、若さくら、雪競、ゆかり香、花月香、九重、牡丹白粉、花園、白露、花の雪、富士見形、雲井、キレー白粉、花のつや、東にしき、雲のつや、千代の玉、雪の友、富士嶺、八重錦、鶴の友、都の花、花王白粉、新花王白粉、小町水おしろい、ダイヤモンド、佛蘭西美人スノー、雪の梅、音羽菊、小町梅、壽美禮白粉、小町白粉、京の水ふか緑白粉、小町白粉、小町香、丁子香、白玉粉、天上香白粉、都白粉、玉白粉、都錦都雪、金明粉、丁子香、生白粉、練白粉、花の錦、雪の花、初さくら、白牡丹、都の水、ホワイトロース、丁子香、玉の花、八重櫻、宮田白粉、飯田白粉、小出白粉、小足白粉、都の花、やまと錦

▲無鉛の分　無鉛製衛、生白粉雪、衛生白粉、白ゆり、パンジ白妙、水晶おしろい、メリー名譽白粉、御園の露、やまと櫻、宇治紅葉、すぐれはだ、キメハブタイ、土屋白粉、雪の雫、夕顔、菊の露、横井、はつれ白粉、國の花、新式無鉛やまと錦、菊の露（井上）

●鼷鼠及細菌檢査の成績　東京市にて鼠族買上を施行して以來去月卅一日迄の成績に據れば斃鼠七千五百三十四疋、捕鼠九十九萬三千二百三十五疋にて都

合百萬〇七百六十九疋となれり而して右の捕鼠五十三萬三千五百〇六疋、斃鼠二千七百五十三疋に檢鏡を施したる結果ペスト菌の之ありしは捕鼠にて三十二疋斃鼠にて六十九疋なりし由尙各區中最も病菌の多かりしは本所にて他は下谷に二疋淺草に一疋ありしのみなりと云ふ

▲皮膚病者の入浴取締　從來傳染的皮膚病者の早朝より入浴するは甚だ衞生上面白からざる事とて警視廳にては之が取締法に就き目下夫々調査中の由なるが頑癬、疥癬其他皮膚病者の入浴は午後八時或は九時とし一定の時間を定めて入浴せしむることゝすべく近々市內の各湯屋營業者に對し諭告を發し取締方を行ふ筈なりと云ふ

●獨逸の少年自殺　獨逸にて十歲乃至十五歲の少年の自殺するもの一千八百六十九年より一千八百七十三年迄千に逆する三十一の割合なりしに一千八百八十四年より一千八百八十八年迄の五ケ年間には四十四に進み一千八百九十四年より一千八百九十八年迄には一層增長して五十二となれり自殺の原因を研究せしに學校にて些少の過失の爲めに處罰せらるゝを恐るゝの餘り斯る無分別なる擧動を敢てする者多しと云ふ

▲各國人喫煙量　近着の佛國新聞に依れば歐米各國人一人平均一ケ年の煙草消費高は左の如しと

和蘭	三、四〇〇グラム	合衆國	二、〇一〇グラム	白耳義	一、五三二グラム
獨逸	一、四三二	濠洲	一、四〇〇	墺地利	一、三五〇
那威	一、一三五	丁抹	一、一二五	加奈陀	一、〇五〇
佛蘭西	九六七	瑞典	九四〇	露西亞	九一〇
英國	六八〇	伊太利	六三五	西班牙	五五〇

序に日本人の消費額を概算するに殆ど英國人と同程度なりといふ

▲虎列刺患者全滅　內務省衞生局に於ける最近の調査に依れば全國各地方に於ける本年初發以來虎列拉病患者概數は二十八名內死亡十六名にして其發生地方は兵庫三名秋田二名福岡七名佐賀五名大分二名愛媛熊本各一名鹿兒島二名沖繩五名等にして是等の患者は孰れも既に死亡し或は全快せる趣きにて昨今の處全國各地方を通じ一名の該患者もなく二三の疑似患者あるのみなりと云ふ

●喘息注射血淸の發見　古來喘息は不治の病と稱せられ歐米の大家が幾年來研究を重ねつゝあるも未だ適當の療法を發見する能はざりしが北里研究所員與山仲遠藤芳三の兩氏數年前より研究の結果始めて其

の血清注射療法を發見し本年初夏の頃細菌學會に於て之を報告せしより大いに内外醫術社會の注視を惹きつゝありといふ今回兩氏が全此問題を解決し有効とせば實に本邦醫學界の名譽といふべし

▲赤痢病現狀　最近内務省の調査によれば本年初發以來の全國赤痢患者總數は七千九百七十人内死亡者千四百九十七人現在患者數三千三十二人就中最も多數の患者を發生したるは東京、神奈川、長崎、新潟、埼玉、群馬、千葉、茨城、愛知、靜岡、山梨、福島の各縣にして多きは六百名少きも二百餘名の患者を出し尚新患者續發の模樣ありと

●赤痢病流行の兆　其筋の最近調査に據れば本年は殘暑強きが爲め各地方共赤痢病流行の傾向を呈し昨今急性下痢患者續出するに付當局者は各地方を通じ秋季大清潔法を施行せしめ又一方には急性死亡者の屆出に對し特に注意し之れが豫防を爲さしむると同時に場合に依ては地方の部落に該患者特發の際は溪水河水等の飮用及使用等を禁止し一切煮沸水を用ゐしむる方針なりと

▲昨今の赤痢患者　本月一日以來去十日迄の府下の赤痢患者は五十八名ありて尚ほ續發の模樣ありと

●傳染病國庫補助額　最近三ケ年間に於ける總額九十八萬七千五百八十一圓にして一年平均三十二萬九千百九十三圓就中補助支出の多きは新潟、宮城、福岡、大阪、長野、愛知、三重、福島等の數縣なり

●ペスト又々發生　横濱市に又々ペスト病續々發生の模樣あり病毒區域も擴まりたれば内務省の窪田衞生局長は野田防疫課長と共に實況調査中なりといふ

▲ベルツ博士の御雇繼續　獨逸醫學博士イー・ベルツ氏は本年七月末日を以て宮内省御雇滿期の處東宮醫務顧問として來三十七年七月卅一日迄御雇繼ぎに相成りたりと

●新潟市の水道　新潟市にては今回百二万八千餘圓の經費にて同市に水道布設の都合にて比較的井水のよき關屋全部及市の西端入家稀なる處は後期に讓り水源は之を信濃川に取り白山浦南端に於て河中約百間の處に取水塔を設け同所より引用する都合なりと

いふ

▲隆鼻器　此頃專賣特許となる其用は鼻の低き平らたきものを矯正し之を高くならしむるにありて之れが爲め發明者は彈機により挾壓力を用ゐツマリ鼻を器械にてツマミ習慣をつくるにあり使用は夜間就眠の時又は其他隨意の場合に於て勉めて之を使用するときは隆鼻の目的を遂するにあり若し果して好結果なれば醫術以外自然的に低き鼻を矯正し得る有益なるものなるべし發明者は東京竹若伊右衛門氏なりといふ

●大日本婦人教育會講習會　同會員自修便宜のため全會を開き源氏物語講義は下田歌子女史英語練習は松井栞子料理法は井上善兵衛和久井淺之助諸氏なりといふ

因に記す婦人教育會にては剩餘金を基礎とし今回大に寄附を募り三年以内に會場建築の豫定なりといふ同會は益々盛んなりといふべし

●錦秋女塾　秋間ため子氏其塾主となり本郷元町二丁目四十八番地に女塾を開き地方より出京せる女學生の爲めに保護監督の任に當り通學の餘暇には本人の志望により活花點茶其他女子に必要なる技藝をも授くといふ

●新刊雜誌　東京　第一號發刊となる卷首に令孃紳士藝妓等の美麗なる寫眞數葉あり今其目次の大躰を記せば言論市政記者倶樂部東京人物評小説東京の裏面、演藝、雜錄、文藝、時報等にて硬軟宜しきを得たる好雜誌なり毎月二回發行一冊十錢發行所は日本橋本銀町東京雜誌社なり



大日本婦人衛生會記事

●十月例會報告

炎暑の爲め暫らく休會せし本會例會は來十月三日第一土曜日午前一時半より東京女學館に開き三宅

博士外學士の講演あり會員諸氏の來會を待つ

●新潟支會　今回特別會員澁川たま子を評議員に推選せりといふ

●同特別會員稲月さよ子姓を橋本と改む

●山形支會長　今回山形縣知事田中令夫人を山形支會々長に推選承諾せられしといふ



●本會入會者

○事務所へ申込

●愛知縣三河國北設樂郡段嶺村大字豊邦　賛成員　藤澤長佐君

●上野國邑樂郡伊奈良村大字板倉百六十六　通常會員　荻野そで子

●麻布區笄町百九番地　通常會員　安蒜浦子

●日本橋區久松町廿九杉浦方　通常會員　馬場せい子

●同所　通常會員　伊藤みね子

●本郷區第一醫院內　通常會員　駿井くら子

●芝區櫻川町二番地室友尾方　通常會員　岡村しげ子

○熊本渡邊千賀子紹介

●熊本市四新町四番地ノット樣方　通常會員　大崎つの子

○岐阜加野春夫君紹介

●岐阜縣安八郡結村大字東結　通常會員　馬淵秀子

○日本橋安達みつ子紹介

●岩手縣盛岡市內丸四十三番地　通常會員　三田さめ子

○京橋中里せい子紹介

●日本橋區蠣殼町二ノ四　通常會員　齋藤みさ子

○芝岩船貞子紹介

●麻布區三河臺町二十七　通常會員　志賀こう子

○牛込森しん子紹介

●神田區元岩井町二十八　通常會員　長本つた子

○本郷立川よね子紹介

●本所區南二葉町二十五　通常會員　畠山八重子

○本郷横尾よし子紹介

●芝區明舟町十八番地　通常會員　木村つる子

高崎支會入會者

○幹事横井昇子紹介

●前橋市宗甫分村第二號官舍　賛成員　渡邊褧介君

●同所　通常會員　渡邊勇子

●同市龍見町百二十番地　通常會員　高須ふみ子

○評議員栗野まる子紹介

●高崎市柳川町七十二番地　通常會員　青木ふさ子

○副會星野きよ子紹介

●高崎市柳川町百九番地　通常會員　杉原しゅん子

○山越千代子紹介

●高崎市本町一丁目百三十八番地　通常會員　小林滿知子

○秋田特別賛成員紹介

●多野郡新町二百七十五番地　通常會員　成田たき子
●高崎市四谷町一番地　通常會員　反町せい子

○横井特別賛成員紹介

●高崎市柳川町百四十六番地　通常會員　加治せつ子

宇都宮支會入會者

○神野講師紹介

●池上町神野病院内　通常會員　木田みつ子

○吉永幹事紹介

●河原町　通常會員　富岡らい子
●材木町　通常會員　田中しん子
●鹽谷郡北台根澤　通常會員　阿久澤いと子

○阿久澤いと子紹介

●山形縣西置賜郡鮎貝村　通常會員　安部てい子

●新潟支會入會者

○會長小柴きく子紹介

●新潟市醫學校町　特別會員　土田とめじ子

●山形支會入會者

○北島學士紹介

●山形　通常會員　谷口その子

○中原幹事紹介

●山形　通常會員　高橋みつ子
●仝　通常會員　佐々木さと子
●仝　通常會員　高島こと子

○岩本副會長紹介

●山形　特別會員　今野歌子

●正誤

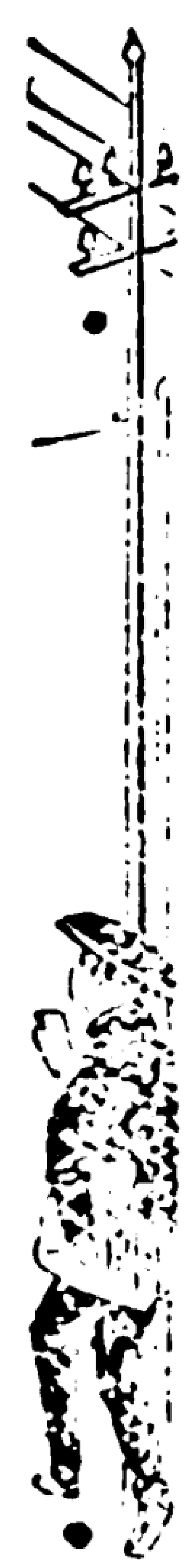
前號雜誌入會の部杉村しづ子以下友田氏迄新潟支會入會とせしは山形の誤次號に詳く正誤致し候

弔詞

●高崎支會通常會員玉林章子には今回死亡せられたるの報に接し本會は

謹みて哀悼の意を表す

大日本婦人衞生會



●轉居

▲會員諸姉御轉居の際は可成新居所御記入事務所宛御一報相願候

●麹町區飯田町六ノ五へ　丹治杏子
●本所區北割町八十八へ　宇野きみ子
●府下豐多摩郡千駄谷村字千駄谷八五六へ　大部久子
●神戸市楠町七ノ百四番屋敷へ　松元信子
●熊本市北丘尼町二十へ　渡邊下賀子
●高知市中新町四ノ百五十六番屋敷へ　安岡貞枝子
●朝鮮國銅峴濟州院へ　佐藤梢子
●麻布區芝森元町二ノ二十三へ　阿島ふ人子
●相州鎌倉町字長谷新宿池田別莊　池田房子

●相州横須賀諸明山十九號へ
●芝區三田道新町十三へ
●本郷區湯島四ノ十九海老原方へ
●芝區葺手町十七へ
●芝區高輪北町四十三へ
●本郷區丸山福山町十へ
●赤坂區青山南町二丁目進方へ
●京都市上京區中立賣通烏丸西入へ
●台灣台北城南街專賣局第三種官舍第十五號へ
●麹町區富士見町四丁目二番地へ
●北海道旭川步兵第廿七聯隊官舍へ
●福岡縣山門郡柳河町字常盤町八番地へ
●本郷區切通日本女學校へ
●石川縣高等女學校へ
●栃木縣宇都宮市三條町十九番地へ
●台灣新竹大倉土木組出張所へ
●本郷區彌生所三番地との四十五へ　木村改
●牛込區市谷仲ノ町五十二へ
●周防國岩國町私立岩國病院內へ

飯田和香子　下村ちと子　新井琴子　木村ふみ子　近藤花子　伊藤こう子　進とし子　河村たま子　市川うめ子　篠原せき子　三宅かい子　今井ぶん子　関蕊賀子　坂野鈴子　清洲宮子　田原その子　横尾芳子　古川のぶ子　林くま子

●交換寄贈雜誌（八月分）

●日本赤十字　京橋區南傳馬町一ノ七　日本赤十字發行所
●統計集誌　京橋區山城町六　東京統計協會事務所
●をんな　麹町區下二番町三十七　大日本女學會
●大坂醫學會雜誌　大坂市東區淡路町一ノ廿八　大坂醫學會
●教育實驗界　本郷區森川町一　育成會
●通俗衞生　大坂市四區土佐堀通三ノ廿九　大坂私立衞生會事務所
●藥學雜誌　牛込區新小川町二ノ八　日本藥學會事務所
●國家醫學會雜誌　本郷區富士町一　國家醫學會雜誌發行所
●婦人世界　大坂南區末吉橋通四ノ六十四　浪華婦人會
●產科婦人科學雜誌　日本橋區濱町三ノ七楠田病院內　產科婦人科學會事務所
●佛教文藝　淺草區新谷町十　佛教社
●躬行會叢誌　芝區三田綱町一　躬行會叢誌出版部
●學校衞生　芝區南佐久間町二ノ十八　學校衞生研究會
●中外藥報　神田區小川町一　中外藥報社
●婦女新聞　牛込區東五軒町四十一　婦女新聞社
●愛國婦人　麹町區下二番町三十七　愛國婦人發行所

●藥石新報　大坂西區江戶堀下通三ノ卅六　藥石新報社
●工手の母　大坂北區西野田新家西の町　工手の母新聞社
●草樂新聞　大坂南區心齋橋筋二ノ百七　草樂新聞社
●日本衞生週報　甲府市代官町廿六　日本衞生週報社
●防長醫事　山口縣吉敷郡山口町鍵湯小路　防長醫事社
●家庭新聞　熊本市新坪井町廿三　家庭新聞社
●兒童教育　神田區末廣町十　兒童新聞社
●農產時報　府下豐多摩郡淀橋町柏木百三　農產商會
●日本女學　本郷區東片町百三十三　日本女學會
●工業雜誌　京橋區尾張町一ノ一　工業雜誌社
●日本婦人　府下豐多摩郡澁谷村字常盤松御料地內　帝國婦人協會
●衞生報知　神戸市相生町一ノ廿七　私立神戸市衞生會
●京濱實業新報　神田區北神保町八　京濱實業新報社
●東京藥事新報　京橋區桶町四　東京藥事新報社
●東京教育雜誌　神田區一ツ橋通町廿一　東京教育雜誌發行所
●體育　麹町區飯田町二丁目　日本體育會
●大日本私立衞生會雜誌　京橋區宗十郎町七　大日本私立衞生會
●婦人新報　赤坂區榎坂町　婦人新報社
●產婆學雜誌　日本橋區濵町三ノ七　日本產婆學協會
●廣島衞生醫事月報　廣島市猫屋町　廣島衞生醫事月報社
●越佐教育雜誌　新潟市寺裏通　越佐教育雜誌社
●婦人と子とも　本郷區女子高等師範學校內　フレーベル會
●山陽新報　岡山市榮町　山陽新報社
●神經學雜誌　小石川區籠駕ケ窪町東京醫科大學精神學教室內　日本神經學會事務所
●白梅　神田區錦町三ノ一　大日本看護婦人矯風會
●新潟縣衞生會雜誌　新潟縣廳內　新潟縣衞生會
●婦人　神戸市三ノ宮町一ノ百七十三ノ二　婦人協會
●びじり慈門寶鑰　愛知縣岡崎亮管生番外　滋音堂發行所
●日本橋區協會雜誌　日本橋區蛎殼町二ノ二　日本橋區衞生協會
●帝都戸籍新報　日本橋區本銀町一ノ七　帝都社



●艶の肌功用

しやぼんいらず

此品は衛生に適ひたる種々の原料にて造り**しやぼん**と**ぬか**と**あらい粉**を兼ねたる者にて其上左の効用ある改良あらい粉也

あれぬこと

此品は悪しきしやぼんの如く肌のあれることなく御使用後はすべくとして色つやをよくし**おしろい**ののり最もよろし

色白くなる

此品の内には色を白くする薬を多く用ゐたれば常に御用ゐなれば「キメ」細かに**色白く**なること確實にして特におかんぼの湯あみに用ゐ適當なり

用法

此品は普通のてうず鉢の如く適宜ぬか袋に入れ御用ゐの方効能多きも普通あらい粉の如く少しつゝ鉢に交せ御用ゐになれば極めて御徳用なり◎又永く「ぬか」にならぬ故旅行用御つかい物に適す◎油手には手のひらに少しのせ洗はるべし

經濟

▲定價箱入十錢●● ▲袋入五錢●● ▲貳錢●● ▲特製卅錢●●
●郵送費ハ金貳錢

東京牛込區通寺町三十八番地
つやの肌本舗 **松壽堂**

東京京橋區銀座二丁目一番地
特約販賣 御園おしろい本舗 **胡蝶園**
（電話新橋二六四〇番）

●東京府下販賣所 ●府下及各地方に販賣店を募る

所在地	店名
牛込神樂町	浅井商店
麹町飯田町四ノ三〇	坂田天堂
浅草小島町	松木商店
仝川中町四十一	黒澤商店
京橋築地一ノ八	虎屋本店
麹町飯田町二ノ三〇	英盛堂
京橋築地一丁目	弘文堂
芝烏森四	末廣屋
麻布材木町二ノ四六	晴進堂
麹町上六番町四〇	矢來堂
赤坂一ツ木五	松下商店
仝田町三ノ一〇	加藤商店

所在地	店名
麹町三ノ五	藤田商店
仝飯田町六ノ二〇	伊藤商店
神田三崎町三ノ一	英盛堂
下谷池端十一	福屋
本郷切通坂町三	ふじや
牛込箪笥町三十一	酒井商店
四谷新宿三丁目	池田屋
麻布飯倉五ノ三十	萬屋
芝三田二ノ十三	町井商店
仝三田一ノ八	花びし
仝烏森四	小杉商店
日本橋通花廿七	明治屋

所在地	店名
麻布飯倉三丁目	白ぼたん
芝網學校傍	布袋屋
神田美土代二ノ七	中澤商店
牛込岩戸町十八	森商店
牛込白銀町十二	吉田屋
牛込早稲鶴巻町四	鈴木商店
小石川區竹早町	仁壽堂
牛込原町三ノ七	一心堂
赤坂田町六十一	むさしや
神田北神保丁六	英盛堂

私立大日本婦人衞生會茨城支會規則

開設の趣旨及目的

第一條　凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を望まざる可からず之を望まんとするには必ず衞生と相俟ちて而る後ち始めて全き事を得るならん、されば吾人は現今東京に於る該本會に倣して更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衞生上の事項をして益研究し益改善を圖りてその發達を互に努め力めんとするに在る而已●第二條　本會は私立大日本婦人衞生會茨城支會として之を當水戸市に置く●第三條　本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會手續入會の節は氏名族籍住所等を明記し本支會事務所に申込むものとす。但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖とも徽章代は豫め前納せらるへし●第五條　會員を分ちて特別。通常の終身の三種とす終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三十錢以上通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むると●第六條　男子にして本支會の趣旨を贊成する者は之を贊成員とす其の會費は本支會員に全じ但し本支會に功勞ある者又は本支會に於て贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるへし●第七條　本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本支會事務所に報知すへし。(死亡等は親戚知人より通知せらるへし)●第九條　本支會に左の役員を置く支會長一名、副支會長一名、幹事六名、評議員十名、書記(會計、庶務は幹事中より各二名づゝ互撰分擔す)●第十條　役員は任期滿一ヶ年とし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む●第十一條　本支會長は本會を總理し副支會長は支會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を整理し評議員は重要なる會務を評議し會計書記庶務各其事に當る(但し書記は都合により定員外のものに臨時依托する事あるへし)●第十二條　集會は例會總會評議員會及臨時會とす集會は八月を除く外毎月一回第三の日曜日に之を開く總會五月適宜の日を以て之を開く急要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開きて評議する事あるへし●第十三條　毎會學識經驗ある知名の士に囑托して衞生上の講義演說又は之に關したる實驗等をも爲し本支會員に聽講せしむ但會員は知人家族等誘引して參會するを得(此際出席の衣服は總て質素たるへし)●第十四條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず但し贊成員若しくは會員の縁故ある男子は此限りに非ずと雖本支會の都合により臨時謝絕することあるへし●第十五條　毎會開會の實況等を本部へ送致するものとす●第十六條　會計本支會の所有金は本支會の名義を以て常百四銀行に預け置くものとす●第十七條　本支會々費の收入金は其一部を便宜本部へ回送するものとす●第十八條　總會に於て會計の收支決算及役結等を報告するものとす●第十九條　會員中若し本會の障害となるへき所爲ある者又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるへし●第二十條　此に記述したる數條の他その必要と認むべき事項あらば成る可く本部の規則を適用するものとす●第二十一條　本支會規則は本支會長の意見又は會員二十名以上の贊成により總會の意見を經るに非ざれば漫に之を變換する事を得ず。

明治三十四年十月創立

水戸市上市田見小路二十五番地

茨城支會

私立大日本婦人衞生會高崎支會規則(明治三十五年四月創立)

●第一條　當支會は大日本婦人衞生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衞生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するを目的とす●第二條　當支會は大日本婦人衞生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄合町五十番地に置く●第三條　當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す●第四條　本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三個月分以上の會費を添へ申込まるべし●第五條　當支會に學術其の他の裨益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志贊助員となす●第六條　當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條　支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名●第八條　役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は役員中より會長之を指名す但役員の任期を一箇年とし再撰するを得●第九條　本會の特別贊成員を定員外の評議員とす●第十條　當支會は每月一回講話會を開き每年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす●第十一條　會員及贊成員の家族並に篤志贊成員は集會に參列するを得但時宜により男子の參列は謝絕することあるべし●第十二條　本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす●第十三條　總て會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす但三箇月分以上宛前納すべし●第十四條　支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條　會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す●第十六條　本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす●第十七條　會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確守に勵行すべし●第十八條　特に此規則に揭げざる者は本會の規則を準用す

事務所　高崎市寄居町五十番地

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表章するため左の徽章を用ゆ

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は左の實價を以て會員に頒つ



●六月以降徽章料改正

●通常會員章

第三號

メッキ製拾二錢、送費六錢

●第二號

正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章

第一號

七十錢（黑塗桐箱入送費九錢）

六十錢（桐箱入送費六錢）

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り每月雜誌の配達を兼ね會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候也但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料なも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込郵便局）宛振出あるべし又た價格表記通巡便、何にても差支なし●會費受領證を要する節は送費として郵劵一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數に應じ本會雜誌進呈の事

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之

本誌一部定價貳拾錢

發行所　東京市牛込區矢來町三番地中丸、四　私立大日本婦人衛生會

編輯兼發行人　東京牛込區矢來町三番地　田中德三郎

印刷人　東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　渡邊智

明治三十六年九月廿三日印刷及發行（每月一回十五日發行）

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場